

事項一二 「対支政策綱領」関係

七三七 六月

清浦内閣ノ対支政策

大正十三年六月出淵亞細亞局長

清浦内閣ノ対支政策
緒言

大正十三年一月清浦内閣成立後間モ無ク勝田大蔵大臣ヨリ
対支政策確立方閣僚ニ提議スル所アリタルヲ以テ松井外相
ヨリ対支政策ノ如キ重要問題ハ一夜作リニテ製造シ得ヘキ
モノニアラサルヲ以テ先ツ属僚ヲシテ篤ト調査研究セシム
ルコト可然ト応酬シ結局外務省亞細亞局長ノ下ニ陸海兩省

各軍務局長及大蔵省理財局長ヲ会合審議セシムルコトニ了

解ヲ遂ケ其ノ結果同年二月二十八日ヲ以テ第一回会議ヲ催
シ亞細亞局長ヨリ滿蒙地方ニ於ケル鐵道敷設案（別紙第一
号）及対支政策綱領資料（別紙第二号）ヲ提出シ一応ノ説
明ヲ与ヘ意見交換ノ端緒ヲ啓キ爾來關係各局長ヨリモ夫々
提議スル所アリタルカ外務省ト關係省就中陸軍省トノ意見
容易ニ一致ヲ見ルニ至ラス漸ク五月上旬ニ至リ略ホ成案ヲ

ノナリ

第三号 同年三月六日富田理財局長ヨリ提出セル対支經濟

政策ニ關スル私案

第四号 同年三月十四日烟軍務局長ヨリ提出セル対支政策

私案

第五号 同年三月十四日小林軍務局長ヨリ提出セル対支政

策私案

第六号 出淵局長ノ求メニ依リ酒匂通商局第一課長ノ記述

セル対支商業政策一般

第七号 同年三月十五日烟軍務局長ヨリ提出セル富田理財

局長私案（第三号）ニ對スル陸軍側意見

第八号 同年三月十五日烟軍務局長ヨリ提出セル出淵局長

私案（第二号）ニ對スル陸軍側意見

第九号 同年四月一日出淵局長作製ニ係ル対支政策綱領

第十号 同年四月十四日出淵局長ニ於テ前記対支政策綱領

（第九号）ヲ整理改作ノ上始メテ松井大臣、次官ノ

閱了ニ供シ大体同意ヲ得タル上即日關係局長ヘ送付

セル対支政策綱領第一回案

第十一号 同年四月十五日四局長會議ニ於テ前記第一回案

見ルニ至レリ然ルニ同月下旬偶々清浦内閣瓦解ノ不得已ニ
至リタルヲ以テ五月二十六日急遽外務大臣官邸ニ於テ松井
外務大臣、宇垣陸軍大臣、岡田海軍次官（海軍大臣病氣）、
勝田大蔵大臣会合ノ上四局長ノ協定セル対支政策綱領ヲ審
議シ二、三ノ修正ヲ加ヘ確定案ヲ見ルニ至リタル（カ）内閣
瓦解ノ際対支政策ノ如キ重要政綱ヲ決定スルハ穩當ナラサ
ルヘシトノ意見出テ結局四大臣連署ノ上總理大臣ニ対スル
報告書ノ形式トナシ後繼内閣ニ引継クコトニ決定セリ

大正十三年六月

亞細亞局長 出淵勝次（署名）

目次

第一号 大正十三年二月二十八日四局長會議（烟陸軍省軍
務局長、小林海軍省軍務局長、富田大蔵省理財局
長、出淵外務省亞細亞局長）ニ提出シタル滿蒙地方

ニ於ケル鐵道敷設ニ關スル出淵局長私案

第二号 同日提出シタル対支政策綱領資料（本書ハ対支政
策審議ノ材料トシテ出淵局長ノ思付ヲ記述シタルモ

ニ付意見交換

第十二号 同年四月二十二日烟軍務局長ヨリ対支政策綱領

緒論ニ關スル意見書

第十三号 同年五月一日出淵局長ヨリ關係局長ヘ送付セル

対支政策綱領緒論修正案

第十四号 同年五月六日小林軍務局長ヨリ提出セル対支政

策綱領緒論修正案

第十五号 同年五月六日烟軍務局長ヨリ提出セル対支政策

綱領ニ對スル再修正意見

第十六号 同年五月九日四局長會議ヲ開キ審議決定ノ上五

月十二日配布セル対支政策綱領閣議案

第十七号 同年五月二十六日外務大臣官邸ニ於テ松井外務

大臣、宇垣陸軍大臣、岡田海軍次官（海軍大臣病

氣）、勝田大蔵大臣会合出淵局長ヨリ前記対支政策

綱領閣議案（第十六号）ニ付キ説明ヲナン討議ノ上

同案ニ対シ加ヘタル修正

第十八号 陸海大蔵外務四大臣ヨリ清浦總理大臣ニ宛テタ

ル対支政策綱領送付ニ關スル公文案

第十九号 同年五月二十九日陸軍省軍務局ヨリ提出セル修

二二 「対支政策綱領」関係 七三七

七六五

二一 「対支政策綱領」関係 七三七

七六六

正案（本案ハ出淵局長ニ於テ峻拒シタル結果陸軍側

ニ於テ撤回セリ）

第二十号 海陸大蔵外務大臣次官及関係四局長調印セル対

支政策綱領確定案

（第一号）

大正十三年二月二十八日四局長會議ニ提出 （出淵）

満蒙地方ニ於ケル鐵道敷設促進案

満蒙地方ニ於ケル鐵道敷設ニ関シテハ日支間ニ屢々協定ヲ
経タルニ拘ラス各種ノ事情ニ依リ一小部分ノミ実現セラレ
タルニ過キス而モ鐵道ノ敷設ハ産業ノ開発秩序ノ保持上重
大ノ關係ヲ有スルノミナラス同地方ニ對スル我地歩ヲ益々
鞏固ナラシムル所以ニ付此際大体左記方針ノ下ニ其ノ促進
ヲ図ルコト急務ナリト思考ス

（甲）促進ヲ図ルヘキ鐵道

（1）此ノ際先ツ左記留保線ノ敷設促進ヲ図ルコト・

一、開原海竜吉林線（場合ニ依リテハ奉天海竜吉林線

トスルモ差支ナカルヘシ）

一、吉会線ノ一部タル吉林敦化線（敦化ヨリ間島ニ至
ル線ハ暫ク飯田延太郎計画ノ天國鐵道延長計画ニ委

シテ張對中央政府ノ關係ニ顧ミ張ノ了解ヲ求ムルコト絶
対ニ必要ナリ從テ中央政府トノ間ニ了解ヲ付クルコトニ
努ムルト共ニ機宜ノ手段トシテ先ツ張作霖トノ間ニ了解
ヲ遂ケ鐵道敷設ノ促進ヲ図リ徐ニ時機ヲ見テ中央政府ト
協定ヲ遂クルノ措置ニ出ツルコト然ルヘシ

（丙）鐵道敷設協定ノ当事者

前掲ノ我留保諸鐵道ハ朝鮮興業台灣ノ三銀行ニ於テ契約
上ノ当事者タル處今後此等鐵道敷設促進ニ付テハ滿蒙ニ
對スル滿鉄會社ノ使命ニ顧ミ同社ラシテ出資其他万般ノ
衝ニ当ラシムルコト當然且得策ナルヘシト思料ス且滿鉄
ニ於テ其ノ当事者トナル場合ニハ借款条件ノ如キハ出来
得ル限り寛大且實際的トシ工事設計ノ如キモ理想ニ走ラ
ス専ラ鐵道開通ノ迅速ナラムコトヲ期スル方然ルヘシ

（丁）前貸整理

前記我留保諸鐵道ニ對シテハ所謂西原借款ノ一部トシテ
合計三千万円ノ前貸交付セラレアリ契約当事者タル三銀

行ニ於テハ本契約締結ノ為支那當局ト商議ヲ尽シタルモ
纏ラシテ今日ニ及ヒ而モ右前貸ノ元利ハ極メテ一小部
分ノ利子支払アリタル外全部支払停滯シ居レリ

スルコト然ル（シ）

一、長春洮南線（本線ハ伯都納大賚ヲ經過スルコトト

シ差当リ大賚ニ止ムルコト然ル（シ）

尚此際洮南齊々哈爾線敷設ノ急務ナルコトヲ唱道スル

モノアルモ同線ハ我留保線ニアラサルノミナラス満蒙

留保問題當時ニ於ケル國際間ノ行懸並ニ其ノ露國側ニ

与フルコトアルヘキ反響ニ顧ミ暫ク他日ノ問題ニ譲ル

コト

（乙）賓黑鐵道ニ付テハ同鐵道権利者露亞銀行ト正金銀行ト
ノ間ニ新「シンジケート」ヲ組織シ右敷設資金ヲ引受

クルノ契約成立シアル處右契約ハ來ル六月ヲ以テ期限

満了スルニ付不取敢更ニ相當期間ノ延長ヲ図ルコト尚

右延長ニ付テハ從来ノ行懸上矢張正金銀行ノ名義ヲ用

フルコト（本件延長ニ付テハ前貸ノ半額二十五万弗ノ

分担支出セシムルカ又ハ直接正金ニ對シ適當ノ方法ニ

テ資金ヲ融通スルコト）

（Z）鐵道敷設協定ノ形式

前頭諸鐵道敷設ニ付テハ中央政府トノ間ニ商議ヲ遂クヘ
キ筋合ナルモ此等諸鐵道カ張作霖ノ勢力地域内ニアリ而

（第二号）

大正十三年二月二十八日四局長會議ニ提出 （出淵）

対支政策綱領（資料）

一、華府會議ニ於テ協定セル諸條約及決議ヲ尊重スルコト
(1) 華府諸條約及決議中ニハ多少不備ナル点ナキニアラサ
ルモ首要ナル事項ハ多ク既成ノ主義乃至事態ヲ確認シ

二二 「対支政策綱領」関係 七三七

七六八

タルニ止マリ我国ニ取り毫モ不利益ナル規定ナキノミナラス之ニ依リ将来現出スルコトアルヘキ列国ノ野心ヲ制禦シ得ヘキニ付支那ト特殊ノ関係ヲ有スル我国ニ於テ率先シテ之ヲ尊重スルノ態度ニ出ツルコト

(回)近年頻ニ唱道セラルル國際管理説ハ絶対ニ華府条約ノ精神ニ戾ルヲ以テ我国ハ事柄ノ如何ヲ問ハス極力其實現ヲ阻止スルコト

(ハ)華府諸条約ハ仏國ニ於テ批准ヲ拒否シ居ル為未タ効力ヲ發生セサル所該条約ノ速ニ実施セラレムコト諸般ノ關係上望マシキニ付我国ニ於テ徐ニ米國ト意見ヲ交換シ仏國ノ批准促進ヲ圖ルコト從テ仏國批准拒否ノ最大原因タル金法問題ノ解決ニ關シ適宜斡旋ノ勞ヲ取ルコト

(二)華府諸条約実施ヲ俟チ成ルヘク速ニ關稅會議ヲ開キ二分五厘付加税ヲ決定シ支那ノ對外債務ヲ整理セシムルコトトシ其機會ニ西原借款其他ノ我担保不確実ナル債權ノ確保ヲ図リ同時ニ支那ヲシテ其通商貿易ノ發展ヲ阻害スル不当課税其他各般ノ制限的事項ヲ改メシムルコト

(イ)正当政府以外ノ地方實力者ト公的關係ヲ持続シ之ニ相當ナル援助ヲ与フルコトハ嚴格ニ云ヘハ一党一派ヲ支持スルノ嫌ナキニアラサルモ革命以来ノ混沌タル支那ノ政情ニ顧ミルトキハ單ニ中央政府ノミヲ以テ対支那關係ノ對手方ト看做スコトヲ得サルハ多言ヲ要セサル所ナリ從テ中央政府トノ關係ヲ重ンスヘキハ勿論ナルムルカ如キハ固ヨリ此ノ限ニアラス

ト共ニ地方實力者トノ關係ヲ輕視スルコトナク即ち中央地方ニ亘リ偏ク良好ナル關係ヲ持続シ且相當ノ援助ヲ与ヘ同時ニ其權内ニ於テ我国ニ對シ出来得ル限リノ利便ヲ与ヘシムルノ方針ヲ取ルコト

(ハ)内政不干涉主義ヲ以テ無為無策主義ナリトノ誤解ヲ抱クモノアルモ我国ハ常ニ支那ニ對シ政治上及經濟上積極的措置ニ出ツヘキコト當然ニシテ此等積極的措置ハ内政不干涉主義ノ下ニ之ヲ行フコト格別困難ナル次第ニアラス

眼トスヘキモ日支ノ特殊關係ニ顧ミ必要ノ場合ニハ必スシモ他ニ追随セス独自ノ主張ニ基キ自主的行動ニ出ツルコト九国條約其他ノ國際協定ノ精神ニ則リ対支一般國際關係ノ變理ニ当リ國際協調ヲ主眼トスヘキハ論ヲ俟タスト雖列国ノ態度ニシテ若シ九国條約其他ノ國際協定ニ悖ルカ如キ行動ニ出ツル場合ニハ敢然之ヲ阻止セサルヘカラス過般臨城事件ニ関スル鐵道警備問題ニ關シ帝国カ支那ノ行政的保全ノ見地ヨリ根本的修正案ヲ提議シ列国ヲシテ之ヲ承服セシメタル如キ此ノ例ナリ

又帝國ハ支那ニ對シ特殊緊密ノ關係ヲ有スルコト他列國ノ比ニアラサルヲ以テ常ニ他ニ先ンシテ機宜ノ方策ヲ定メ之ヲ以テ他ヲ指導スルヲ期スルコト

四、権利擁護

立ヲ見ル迄纏リタル政治借款ヲ供給セサルコト将又支那幣制ノ改革ハ多年ノ懸案ナルモ支那ノ現状ニ顧ミ當分実行不可能ナルコト多言ヲ要セサルヲ以テ幣制借款ニ関スル権利ハ之ヲ引続キ留保シ置クニ止メ幣制改革ノ為ノ借款供給ノ如キモ之ヲ見合スコト

三、対支一般國際關係ヲ變理スルニ當リテハ國際協調ヲ主

タルニ止マリ我国ニ取り毫モ不利益ナル規定ナキノミナラス又支那一般民論ノ趨向ナルニ顧ミ我国ニ於テ

其手段方法ノ如何ヲ問ハス支那ニ對シ兵器供給其他ノ軍事的援助ヲ与ヘサルコト

二、不干涉主義ヲ恪守シ一党一派ヲ支持セサルコト

一、不干涉主義ヲ恪守シ一党一派ヲ支持セサルコト

二、不干涉主義ヲ恪守シ一党一派ヲ支持セサルコト

七六九

ハ際限ナクスクリエニ耳ヲ傾クルヲ得サルハ勿論ナルカ混沌タル現下ノ支那政局乃至支那ヲ中心トスル最近ノ国際関係ノ推移ニ顧ミ此ノ際対支方針ニ一段落ヲ画シ從来ノ讓歩的態度ヲ改メ今後ハ苟モ條約慣行ニ依リ正当ニ有スレハ權利ハ飽ク迄モ之ヲ擁護シ一歩モ讓ラサル態度ヲ採ルノ必要アリ所謂二十一ヶ条問題ノ如キモ若シ支那側ヨリ再ヒ提議シ來ラハ直チニ之ヲ峻拒シ右ニ対スル支那側ノ態度如何ニ依リテハ断乎タル措置ニ出ツルヲ要ス但我国已得ノ權利ト雖モ時勢ノ推移ト事態ノ変遷ニ伴ヒ今日之ヲ拠棄スルモ我地歩ノ確保上何等不利益ナキノミナラス反テ諸般ノ關係特ニ我經濟的勢力進展上有利ナル結果ヲ齎ラスカ如キモノナキヲ保セスル事項ニ付テハ我国ニ於テモ努メテ感情ヲ去リ実利ニ就クノ精神ニ依リ適宜之カ調整改廃ヲ實行スルコト尤モ支那側ヲシテ我方ノ真意ヲ誤解シ望蜀ノ念ヲ起サシメサル様其ノ時機方法ニ付テハ充分ノ注意ヲ要ス

五、居留民保護

(1) 法務改善

支那ニ於ケル本邦人ノ発展ヲ期セムトセハ其ノ權利関

ニ付テモ積極的施設ヲナスノ要アリ

(a) 教育改善

内地ニ於ケル教育施設ハ相當ノ域ニ達シ居ルニ加ヘ國庫ヨリモ自治團体等ニ多大ノ補助金ヲ下付シテ之力助成ニ努メ居ルモ支那ニ於テハ在留民数少キヲ以テ資力豊ナラス其ノ經營ニ尠カラス困難ヲ感シツツアリ尤モ現ニ國庫ヨリ多少ノ補助ヲ為シツツアルモ之ヲ内地ノ例ニ比スレハ其ノ厚薄同日ノ談ニ在ラス将来ニ於テハ之等在外学校ニ對シテモ内地学校ニ對スルト同様振合ヲ以テ補助ヲ与ヘ在外子弟ニ對スル国民教育ノ振興ヲ計ルコト

(2) 朝鮮人及台灣籍民ノ保護取締

在滿約百万ノ鮮人及南支數万ノ籍民ニ對シテモ又叙上ノ方針ニ依リ保護取締リヲ行フヘキハ勿論ナルモ之等

新付ノ民ニ對シテハ特ニ考慮ヲ払ヒ其ノ不良不逞ノ徒ニ対シテハ嚴重ナル取締ヲ實行スルト同時ニ之カ撫育

助長ニ努ムルコト

尚朝鮮台灣ニ於テモ土着民ニ生活ノ安定ヲ得セシメ漫然海外ニ移住セムトスル傾向ヲ生セシメサル様施政ニ

係ノ確保ニ努メサルヘカラス華府會議ニ於テハ治外法権撤廃ニ關スル決議ノ成立ヲ見事情調査ノ為支那ニ委員会ヲ開催スヘキコトヲ定メタルモ今尚開催ニ至ラサル有様ノミナラス今日ノ情勢ヲ以テシテハ右委員会ノ開催ヲ見ルモ果シテ何時之力撤廃ノ実ヲ挙ケ得ヘキヤ殆ト予想ダニ為シ得サル状態ナルヲ以テ当分ニ之關係ナク從来ノ我領事裁判制度ヲ改善シ居留民ノ權利伸長ヲ期セサルヘカラス、最近実施ヲ見タル司法事務専任ノ領事制度ノ如キ即チ右改善ノ一端ナルヲ以テ将来益々之カ改善進歩ヲ計ルノ要アリ

(3) 警察改善及不良分子取締ノ断行、支那ニ於ケル在留邦人ノ數ハ年々増加スルモ不幸ニシテ之等在留民中ニハ禁制品販売業者其ノ他ノ不良分子専カラス之等不正業者ノ跋扈ハ独リ日支親善ノ破壊ノ因タルノミナラス支那ニ於ケル邦人ノ健実ナル發展ヲ阻害スルモノナリ支那ニ於ケル邦人ノ發展ニ付テハ須ク數ノ大ナラムヨリハ其ノ質ノ善良且健全ナラムコトヲ期スヘク此ノ趣旨ヲ以テ支那ニ於ケル邦人不良分子ノ取締乃至排除ニ一層努力スルト共ニ之ニ必要ナル警察機關ノ拡張並改善

注意スルコト

六、友好的精神ト公正ナル態度ヲ以テ国民的諒解ヲ図ルコト

日支兩国民ノ感情融和意思疏通ハ對支政策實行ノ基礎ナリ而シテ此ノ目的ヲ達成セムトセハ相互ニ相敬相親ノ精神ヲ以テ蒞マサルヘカラス由來我國民ハ日清戰爭時代ノ敵愾心ニ依リ養ハレタル支那人侮視ノ偏見ヲ脱セス動モスレハ之ヲ劣等国民視セムトスル傾アルノミナラス一般ニ偏狭ニシテ國際的融合ノ素質乏シキ之ノ弊害ヲ匡正スルコトハ日支親善實現ノ一大要訣ナリ殊ニ此点ハ国民教育ニ於テ大ニ注意スルノ要アリ

尚此ノ目的ヲ以テ実業界ハ勿論学界思想界等各方面ノ連絡交歟ヲ助成スルコト

(第三号)

大正十三年三月六日富田局長私案

対支経済政策要綱

左ニハ日支經濟連絡ノ有効且適切ナル方策トシテ現内閣ノ實行セサル可ラサルモノヲ掲ク

第一 借款整理ノ件

二二 「対支政策綱領」関係 七三七

七七二

(1) 我国從來ノ方針ニ從ヒ無担保外債整理ノ最先ノ機会ヲ促ヘ遲クモ関税増徵會議ノ機ヲ逸セシテ我寺内内閣時代ハス外債整理ト関連シ又ハ之カ実行ヲ条件トスルニ非ナレハ問題トセサルコトヲ支那側ニ徹底セシムルコト而シテ関税増徵會議ノ促進ヲ図ルコト

(2) 将来ノ借款申出ニ対シテハ其ノ使途ト金額トノ如何ヲ問ハス外債整理ト関連シ又ハ之カ実行ヲ条件トスルニ非ナレハ問題トセサルコトヲ支那側ニ徹底セシムルコト

第一 対支利權ニ関スル件

現今ノ如ク利權回収熱並排日ノ風潮旺ナル時代ニ於テハ露骨ナル利權獲得運動ヲ為スハ得策ニ非ス寧ロ暫ク既存利權ノ擁護ヲ眼目トシテ進ムコト但炭田及油田ノ開発ノ如キ独リ支那一國ノ問題タルノミナラス我国ノ軍事産業ニモ重大影響アル問題ニ就テハ常ニ之カ調査ヲ怠ラス殊ニ第三國ノ独占權ヲ予防シ若シ協同經營可能ナル時期至ラハ必要ニ応シ日支提携シ若クハ目下ノ本邦金融狀態ニ鑑ミ進ンテ第三國トモ協調シテ之カ衡ニ当ルノ用意ヲ為シ置クコト殊ニ日英又ハ日米ノ対支企業提携ノ具体的の方法ニ付攻究スルコト

第三 対支貿易及企業獎励ニ関スル件

シテハ大倉、三井、三菱等枚挙ニ遑アラサルモ其ノ多クハ本邦大正九年ノ財界反動又ハ今回ノ大震災ニ因リ或ハ支那ニ資金ヲ固定セル為萎靡困憊ノ極ニ在リ殊ニ支那専門ノ前記諸会社ニ於テ然リトス故ニ此ノ際對支經濟活動ノ發展ヲ期セムトセハ先ソ是等対支投資又ハ企業会社ノ整理ヲ實行シ以テ其ノ活動力ヲ恢復セシムルコト最大緊要事ナリトス仍テ此ノ際其ノ具体的方法ニ付講究ヲ進ムルコト

第五 南滿州ノ經濟的地位ニ関スル件

南滿州ヲ以テ我經濟的領土トナスコトハ我国ノ伝統的政策ト目シ得ヘシ然ルニ近時遼東利權回収乃至東支回収問題ノ旺ナルニ連レ此ノ政策ノ基礎ニ動搖ヲ來ス惧アルニ至レリ若シ今後共此ノ政策ヲ維持遂行セントセハ滿鉄及東拓ノ事業ヲ初メ鮮銀其他金融機關機能ニ關シ再考ヲ加フルノ必要大ナリトス又單ニ満鉄沿線ニ勢力ヲ墨守スルニ止マラス進ムア奥地經營ニ意ヲ用ユルノ要アリ又吉会線吉開長洮諸鐵道ノ速成問題モ之ニ関連シテ考慮スルノ要アリ

(第四号)

我国國際貸借ノ不利ナル今日対支貿易ノ發展策ヲ講スルコトハ焦眉ノ急務ナリ之カ方策トシテ考慮スヘキ問題左ノノ宣伝其ノ他所有有効ナル手段ヲ講スルコト

如シ

(1) 排日風潮ノ緩和ニ力ムルコト為メニハ対支文化事業

ノ宣傳其ノ他所有有効ナル手段ヲ講スルコト

(2) 支那ニ本店ヲ有スル日資又ハ日支合弁ノ銀資本会社ノ發達ヲ計ルコト

④ 本邦政府民間ノ銀資金ノ充実ヲ計ルコト

(造幣局資金ノ一部ヲ銀ニシテ保有スル案並日銀ノ正貨準備中銀保有問題モ之ト関連シテ攻究ノ要アリ)

(3) 正金ラントテ関税保管銀行タランメ以テ其資力増加ヲ計ルコト

(4) 支那ニ於テ事業ヲ為ス金資本ノ会社カ金銀相場ノ変動ヨリ來ル損失補填ノ為ニ採レル方法ノ実例ヲ調査シ本邦ノ金資本会社ヲシテ最良ノ方法ヲ採用セシムル様懇意スルコト

(5) 日本内地ニ銀取引所ヲ設置スルノ可否ヲ講究スルコト

第四 対支事業会社ノ機能復活ニ関スル件

本邦ノ対支投資又ハ企業会社トシテハ支那専門ノ会社ト

大正十三年三月十四日提出

烟軍務局長私案

第一 方針

対支政策ノ主眼トスル所ハ支那ヲ扶掖シテ名実共ニ独立國トシテ存立セシメ以テ列強勢力ノ侵漸ヲ防遏スルト共ニ之ト緊密ニ提携シテ我民族生存ノ確保ト其ノ發展トヲ期スルニ在リ從テ帝国ノ対支政策ノ列強ノモノト自ラ其ノ趣ヲ異ニスルハ當然ナルヲ以テ徒ラニ國際協調主義ニ陥ルコトナク專ラ自主的態度ヲ以テ之ニ臨ミ支那民衆ヲシテ帝国ヲ盟主ト仰キ之ニ信頼スルノ必要ヲ自覺セシムルヲ要ス之力為一、從來ノ消極退嬰ノ方針ヲ改メ必シモ内政不干渉主義ニ膠着セス進ムテ内政ノ改善治平ノ促進ヲ図リ以テ列強ノ共同監政ヲ絶対ニ防止スルコト

二、中央政府ノ偏重ノ弊ニ陥ルコトナク且當面ノ処置トンテハ統一問題ニ触ルルコトナク各地ノ有力者ヲ支持シテ

地方ノ改善ヲ図リ以テ逐次我勢力ノ伸展ヲ期スルコト

三、東三省ハ帝国ト特殊緊密ノ関係ニ在ルヲ以テ該地統治ノ実権者（現時ニ於テハ張作霖）ニ対シテハ特ニ之ヲ

援シテ同地方ノ治安維持ニ努メ以テ我經濟的領土タルノ実ヲ擧ケシムルコト

第二 軍部ノ要求

一、支那富源ノ開発ハ滿蒙次ニ北支那ヲ主トシ少クトモ鉄、石炭、棉花、羊毛、皮革等重要ナル資源ノ戰時不足量ヲ同地方ニ於テ充足セシメ得ル如ク平時ヨリ所要ノ施設ヲ加フルコト国防上緊要トス

現況ニ於テ戰時支那ニ仰クヘキ軍需並国民生活ニ要スル不足資源ハ其數量莫大ニシテ滿蒙北支那ハ勿論遠ク長江沿岸ニ亘ル地域ノ物資ヲ最大限度ニ利用セサルヘカラサル狀態ニ在リ從テ用兵ノ範囲亦必然長江沿岸ニ及ハサルヘカラス然レトモ此ノ如キハ徒ラニ作戰範囲ヲ広大ニシ資源蒐集ノ困難ヲ増スモノニシテ決シテ策ノ得タルモノニ非ス故ニ滿州及北支那ノ富源ノ開發ニ努メ重要ナル資源ノ生産增加ヲ図リ所謂自給自足ノ基礎ヲ此圈内ニ確立スルコト国防上極メテ必要ナリ

二、鞍山製鐵所ノ生産能力ヲ少クモ百万噸ニ拡張スルヲ要ス

鐵ハ國防資源中不足額最大ナリ即チ現在ノ設備ニ於テ

(2)長洮線 (長春—伯都訥—洮南間)

(3)開吉線 (開原—朝陽—吉林間)

(4)吉会線 (吉林—會寧間)

(5)賓黑線 (哈爾賓—黑河間)

滿蒙開発ニ必要ナル鐵道ハ其數少ナカラスト雖前記諸線ハ軍事上經濟上必要欠クヘカラサルノミナラス亦敷設可能性ヲ有スルモノニシテ(2)乃至(4)ノ線路ノ如キハ既ニ我力保留線ニ属シ(5)ハ旧露支關係ニ属スルモノナリト雖モ現下ノ國際關係ニ於テ今之ヲ我権利ニ取ムルコト敢テ至難ナラサルヘク而モ今ヤ四洮線開通シ更ニ洮、齊間三三六糀ヲ連接セハ軍事上ノ便宜ヲ得ルノミナラス經濟上ニ於テモ東支線ニ対抗シ北滿ニ於テ優越ナル地歩ヲ獲得シ得ヘク更ニ賓黑線完成スルニ至ランカ所謂北、南滿州ノ縱貫鐵道トシテ其價值ノ重大ナル言ヲ俟タサルヘシ

四、滿蒙ニ於ケル綿羊ノ改良繁殖、種牛牧場ノ設置並之ニシ総テ南滿州鐵道株式会社ヲシテ實施セシムルヲ有利トスヘシ

五、満蒙ニ於ケル綿羊ノ改良繁殖、種牛牧場ノ設置並之ニ伴フ加工業ノ發達ハ國防上極メテ緊要ナルヲ以テ速ニ之

戰時鋼六十余萬噸、銑百五十萬噸鐵礦四百万屯ノ不足ヲ生スル計算ナリ然カモ鉄ノ戰時ニ於ケル必要ハ絶対ヲ我勢力下ニ置クノ必要ヲ生スヘキモ若シ仮リニ鞍山製鐵所ノ予定計劃ニ從ヒ之ヲ百万噸(現時八萬噸)トナストキハ大ニ不足額ヲ緩和シ滿州ノミヲ以テ鐵資源ノ自給自足ヲ企図スルヲ得ルニ至ルヘク果シテ然ラハ國防上ハ固ヨリ我國產足ヲ企図スルヲ得ルニ至ルヘク果シテ然ラハ國防上ハ固ヨリ我國產業ノ基礎ニ一大強味ヲ加フルニ至ルヘシ

今ヤ製鐵技術ノ發達ニ伴ヒ鞍山ニ於ケル貧礦處理法ノ解決ヲ見ルニ至リ優ニ經濟上ノ利益ヲ収ムルノ見込充分ナルヲ以テ此際速ニ政府ノ態度ヲ決定シ百万噸拡張ヲ実施スルヲ要ス

三、滿蒙開発特ニ國防上左記順序ニヨリ鐵道ヲ敷設スルヲ要ス

(1)洮齊線 (洮南—齊々哈爾間)

力達成ヲ計ルヲ要ス

現時毎年八割ノ原料ヲ海外隔絶地ニ仰キソツアル我羊毛業ノ現況ニ於テ此等ノ不足額ヲシテ平戰共ニ自給自足ノ基礎ヲ確立セシメント欲セハ羊牧地トシテ適當ナル満蒙ニ求メ之ヲ開發指導シテ其達成ヲ期スルニ如カス而シテ今ヤ滿鉄ニ於ケル羊毛ノ品種、增殖ノ計畫ハ著々其ノ功ヲ奏シ將ニ大ニ發展セントスルノ好況ニアルヲ以テ此際機ヲ失セス官民共ニ最善ノ努力ヲ以テ之カ達成ヲ期スルヲ要ス牛皮ノ補給又其大部分ヲ支那及海外ニ仰キソツアル現況ニ於テ之カ戰時ノ需給ヲ顧慮スル時ハ前記ノ如ク之ヲ滿蒙ニ求メ速ニ國防並經濟上ノ安定ヲ期スルコト緊要ナリ而シテ此等產業ノ開發ト共ニ其加工業ノ原產地ニシテ而モ労力極メテ低廉ナル彼地ニ求ムルノ有利ナルキモノ極メテ多シ

ヲ実施シ日本ノ給油問題ノ安定ニ資スルヲ要ス

油田ノ獲得ニ関シ世界列強ノ血眼的ナルハ現下ノ形勢

ナリ日本ノ如ク石油産地貧弱ニシテ海外補給ヲ仰ガサ

レハ數月ニシテ全国ノ「ガソリン」機関運転ヲ中止セ

サルヘカラサルカ如キ状態ニアル我国トシテハ之ニ著

目スルコト極メテ緊要ナリ農商務省大河内技師ノ調査

ニ依レハ茂名県ノ頁岩ハ極メテ有望ニシテ其量亦頗ル

多ク今ヤ山田純一郎之カ利権獲得ニ努メ広東政府又該

事業ノ成立ニ好意ヲ有スルノ状況ニアルヲ以テ此際速

ニ政府ノ後援ヲ以テ該事業ヲ実施セシメ以テ平戦両時

ニ於ケル給油問題ニ資スルヲ要ス

六、支那ニ対スル經濟調査ヲ統一シテ徹底的ニ実施スルヲ必要トス

支那ニ対スル經濟調査ハ対支事業ノ基礎ヲ成スモノニ

シテ徹底且具体的ナルヲ要スルニ拘ラズ今尚極メテ幼

稚ノ域ヲ脱セス且各方面共別箇ニ調査研究ニ努メツツ

アル結果其力弱リ又同一事項ニ対シテ徒ラニ労力経費

ヲ重複スル等費ス所多クシテ得ル所極メテ尠シ此際徹

底的調査ノ歩ヲ進メント欲セハ官庁、民間ノ別ヲ問ハ

七、支那側ヨリ顧問招聘ノ際ハ進ンテ之ニ応スルノ方針ヲ採ルヲ可トス
中央政府タルト地方官厅タルトヲ問ハス支那側ヨリ顧問ノ招聘ヲ要請シ来ル場合ニ於テハ進テ之ニ応シ支那庶政ノ改善ヲ帮助シ兼テ日支両国ノ接触親和ノ楔子タラシムルハ单リ日本ノ立場上必要ナルノミナラス支那ニ好意的援助ヲ与ヘントスル華府會議ノ精神ニモ順応シ中外ニ対シ敢テ憚ルヲ要セサルヘシ而シテ其際支那側ノ要請スル顧問カ技術者タルト学者タルト将又軍人タルトハ敢テ之ヲ制限スルノ必要ナク其求ムル所ニ隨ヒ有為ナル人材ヲ应聘セシムル如ク政府當局ニ於テ斡旋スルヲ必要トスヘシ

八、対支文化事業中留日支那学生ニ學費支給ノ件ハ陸海軍學生ニモ亦均霑セシメ又該委員中ニ陸海軍委員ヲ加入セシムルヲ要ス
從來我陸軍ニ於テハ前清末以降支那留学生ノ入学ヲ許可シ幾多ノ人材ヲ教養シ現ニ此等ノ留学生出身者ハ支

那ニ於テ夫々顕要ノ地位ヲ占メアルハ世人ノ知ル所ノ如シ而シテ支那ノ現状ニ鑑ムルニ当分此等軍人カ政界ノ実權ヲ把握スヘキハ略々予察シ得ル所ナルヲ以テ我対支政策遂行上此等ノ人物ヲ利用スルハ看過スヘカラサル問題ナリ
而モ支那軍事改革ハ支那内政改善ノ根本的条件ナルヲ以テ真ニ国家的理解アル軍人ヲ養成スルハ支那ニ於ケル文化ノ進展上極メテ緊要ナル問題ナリ從テ文化事業ニ属スル支那学生ノ養成経費中其一部ヲ軍部留学生ノ教育費ニ充当スルハ毫モ文化事業本来ノ意義ニ抵触セサルノミナラス却テ対支政策ノ遂行上有利ナル案件ナリト認ム

九、對支兵器供給中止ニ関スル帝国ノ態度ニ就テハ考慮ヲ要スルモノアリ
十、支那ノ地形測量ハ用兵上極メテ必要ナルヲ以テ主要地域ノ完成迄繼續実行ヲ要ス
支那ノ一部ニ於テハ軍用ニ適スル地形図ヲ調製セル地方無キニ非ルモ悉ク之ヲ秘シテ民間ニ発表スルコトナシ是他文明國ト全然趣ヲ異ニスル所ナリ從テ我陸軍ノ秘密測量ハ真ニ已ムヲ得サル用兵上ノ要求ニ基因スルモノナリ而シテ近時対支事業家ハ支那ニ於テ地図ヲ得ルノ不可能ナルヨリ軍部ノ測量図ヲ利用スルモノ比年頗ル多キヲ加フルニ至リシハ看過ス可カラサル事實ナリ

十一、支那ノ軍事改善ニハ進テ之ニ援助ヲ与フルヲ要ス
支那ノ軍備ハ今日ニ於テモ尚社会政策ノ一手段ナルヲヒツツアルハ既ニ内外人ノ知悉セル所ノ如シ

二二 「対支政策綱領」関係 七三七

七七八

以テ之カ縮小整理ニハ地方開発ヲ伴ハサレハ実行困難ナリ又之カ実現ニハ節制アル國軍ノ建設ヲ前提条件ト為ササルヘカラス

以上ノ見地ヨリシテ帝国ハ東亜善隣ノ誼ヨリ謂フモ將

又帝國国防上ノ要求ヨリ論スルモ其軍事改善ニ援助ヲ

与フルハ極メテ緊要ナリ支那一般内政ノ改善カ軍事改

良ト密接ナル関係ニ在ルニ於テ殊ニ然リトス

十二、在支宣伝機関ヲ拡張整備シ且國家的統制ノ下ニ活動

セシムルヲ要ス

我在支宣伝機関ハ極メテ貧弱ニシテ常ニ英米ノ宣伝ニ

圧倒セラレアル現状ナリ而シテ其實施ハ國家的統制ノ

下ニ行ハレ又其配置ハ組織的ナルヲ要ス之カ實行ニ付テハ政府自ラ其衝ニ当ルヘキヤ或ハ民間ニ於テ為サシムヘキヤ將又半官半民ヲ以テ行フヤハ大ニ研究ノ余地アリトス

(第五号)

大正十三年三月十四日提出

小林海軍々務局長私案

対支問題覚書

我政府ノ大方針ヲ諒解セシメ其ノ倚ルヘキ準拠ヲ明ニスルコト

四、近時商況ノ不振排日行為ノ頻發等ノ為メ中支在留邦民ノ内其基礎堅カラサルモノハ陸續撤退シアルカ如シ之レ

或ハ自然ノ淘汰ニシテ良民ヲノミ殘留セシムル所以ナル

ヘキモ一面ヨリ見レハ聊カ薄(志?)弱行、數發ノ銃声ニ驚

カサレテ數年ノ苦心ヲ抛擲スル感ナクンハアラス我官憲

ハ此ノ現象ニ對シ適當ナル指導ヲ怠ラサルコト

五、支那ニ於テ一旦占メ得タル我民間ノ事業ニシテ國家的意義アルモノニ就テハ我官民ニ於テモ可成之ラ助長スル方針ヲ以テ進ムコト

例、上海 水先協会

同 船渠事業

六、中支方面ニ於テ見ルカ如キ年中行事のニ發生スル排日

運動ニ對シテハ事ノ發生ヲ待ツテ始メテ対応ノ策ヲ講スルニ止メ斯事前事後相当ノ防遏手段ヲ講スルコト

(例、事前要路ノ大官等カ支那地方実權者ト交歎シ了解ヲ求メ或ハ警告ヲ發スルカ如キ)

七、支那ニ於ケル實業界ノ覺醒並ニ其勢力ノ政治、經濟及

一、左記ノ品種企業ハ其資本カ日支協同タルヲ問ハス事情ノ許ス限り之ヲ支援スルコト

一、羊毛及棉花

二、鐵鉱(例ヘハ大治、漢陽鐵廠ノ如キ)

三、錫、亞鉛、鉛、「アンチモニー」、水銀

四、炭山

五、重油

追テ左記ノ鉱山ハ我力燃料政策上重要ナル關係ヲ有スルヲ以テ其成行ニ注意スルコト

(1)広東省産油頁岩

(2)山東省淄川炭鉱

二、将来支那領土ニ歐米諸國カ獨占的通信機関ヲ建設セン

トルニ對シテハ極力之ヲ防圧シ現ニ有スル獨占的經營ノ通信權ハ其契約満了ノ時期ニ於テ消滅セシムル如ク指導スルコト

三、支那ニ實力アル中央政府ノ確立セサル限り地方實力者ト局所的ニ親善ノ關係ヲ結フニ非^{編註:コノ間脱カ?}サレハ地方在留邦民唯如斯局所的ニ地方有力者ト提携スルコトハ頓テ我國策ノ不統一ヲ招クノ虞アリ支那領域ニ在ル我官憲ヲシテ能ク

甲 銀ノ問題

一、本邦物価ハ競争國ノ夫レニ比シ国内的ニモ將又國際的

(相對的)ニモ割高ナリ貿易ノ維持振興ヲ期セムトセハ主トシテ物価低落ノ方途ヲ講スルヲ要ス物価低落ノ方策ニ付テハ保護干涉主義ヲ去リテ自由放任主義ニ就ク可シ

トノ說、通貨政策トシテ「インフレーションニスト」と及「デフレーションニスト」ノ說アリ又企業ノ整理合同、能

率ノ増進、市場取引ノ整備等ヲ說クモノアリト雖對支商業政策上ノ見地ヨリスレハ銀價維持ノ方策コソ其ノ最モ重要視ス可キモノト認ム

二、本邦貿易ノ將來ヲ推考スルニ對支對印輸出ノ大宗タル

綿製品ニ付テハ支、印、地方ニ於ケル當該工業ノ勃興、

対米輸出ノ大宗タル生糸ニ付テハ主トシテ支那ニ於ケル

当該産業ノ発達予想ニ照シ甚タ樂觀ヲ許ササル事情アリ之カ対策トシテハ高級綿製品ノ製出、水力電氣利用ニ依ル生産費低下等アリト雖最モ高唱ス可キハ銀價維持ノ方策確立ニシテ之ニ依リ対支、印貿易ハ勿論対米貿易上ノ我地歩ヲ相當程度迄維持スルコトヲ得可ク又右方策ヲ実行スル結果ハ金融上対支貿易並ニ在支本邦人企業ノ助長ヲ期スルコトヲ可能ナラシム銀價維持ノ方策トハ即支那ノ銀市場並ニ進ムテハ世界ノ銀市場ノ「コントローリング、パワー」ヲ把握スルニ在リ右ハ難事ニ相違無キモ對外為替上我円価維持ニ対スルカ如キ努力ヲ用フルニ於テハ支那ノ對外貿易上ニ於ケル我国ノ地位ニ鑑ミ敢テ不可能ニ非ラサル可ク併カモ我國貿易ノ将来ヲ思ハハ官民協力之カ實現ニ向テ進マサル可カラス

三、其ノ方法トシテハ一、政府カ相当巨額ノ銀ヲ保有シ我銀行ヲシテ必要ノ時期ニ之ヲ利用セシムルコトニ、対支貿易業者ノ資金並ニ在支本邦人ノ資金ヲ銀化セシメ銀行ハ銀勘定預金ノ吸取ニ努ムルコト三、支那閔稅收入ノ保管銀行中ニ我銀行ヲモ割込マシムルコト四、相當条件ノ銀債券ヲ發行シ長期銀資金ノ吸取ニ努ムルコト

四、斯クシテ銀行業者ハ対支貿易業者及在支企業者ニ対シ本邦金利ニ比シ高カラサル金利ヲ以テ銀資ノ融通ヲナシ以テ金融上ノ不利ヲ除クコト

乙 門戸開放ト機会均等主義ノ問題

五、支那ニ対シ日本及列國ニ求ムル處ハ門戸開放ナルト共ニ支那ノ日本及列國ニ求ムル處ハ機会均等主義ノ適用ニ在リ右ニ付テハ詳説ヲ要スルモノ今之ヲ省キ左ニ対支商業政策ノ具体的問題トシテ考慮スヘキ要綱ヲ挙ク可シイ、支那ニ輸入セラルル外國品ハ現行條約ノ規定ニ依ルコト從テ不当課税ノ除去ニ努ムルコト

ロ、居留地、開放地、自開商埠地及鐵道付屬地内製品ニ對スル課税ノ調節ニ付適當ノ機會例ヘハ支那閔稅特別會議ニ於テ明確ナル協定ヲ遂クルコト之ト同時ニ支那内地一部ノ開放ニ關スル協定ヲナスコトハ、協定地域ニ於ケル企業ノ自由及支那ノ内地事業ニ對スル投資ノ自由ヲ支那ヲシテ認メシムルコトニ、防穀令ノ撤廢主張丙 在支邦人及企業ニ対スル保護ノ問題六、イ、我所得稅法ノ改正

ロ、在支邦人子弟教育費ノ國庫負担

ハ、排日貨期間ニ於ケル金融上ノ援助

二、我工業原料及食料品生産増殖ヲ目的トスル企業ニ

対スル金融上ノ援助

ホ、在支商業會議所、金融機関、倉庫業者、商工獎勵館、対支貿易品同業組合等ニ対スル資金上ノ援助

丁 我當業者指導ニ關スル問題

ロ、企業組織及取引方法ニ關スル改善

ハ、固定資本ノ節約及營業費輕減

ニ、対支關係本邦當業者間ノ連絡及日支商工業者間ノ連絡

ホ、在支金融機關ノ整備ト金、銀券發行ノ調節

戊 地域上ニ於ケル具体的問題

八、滿蒙方面

イ、商租問題ノ解決ト米作獎勵

ロ、鐵道付屬地内製品ノ支那課稅調節（製造稅、營業稅、印花稅）

ハ、開放地、商埠地、雜居地ノ警察課稅問題

一二 「対支政策綱領」関係 七三七

（第七号）

大正十三年三月六日富田局長意見ニ対スル陸軍側意見
(三月十五日)

対支經濟政策要綱

左ニハ日支經濟連絡ノ有効且適切ナル方策トシテ現内閣ノ實行セサル可カラサルモノヲ掲ク

第一 借款整理ノ件

一一 「対支政策綱領」関係 七三七

七八二

(1) 我国從來ノ方針ニ從ヒ無担保外債整理ノ最先ノ機会ヲ促ヘ遅クモ関税増徴會議ノ機ヲ逸セシテ我寺内閣時代ノ借款其他担保不確実ナル借款ノ整理ヲ断行セシムルコト而シテ関税増徴會議ノ促進ヲ図ルコト

「関税問題ト同時ニ支那内地ニ於ケル各種ノ不当課税ノ撤廃ニ努ムル要アラン又西原借款等ノ整理ニ急ナル為遂ニ列國ノ対支財政管理ノ傾向ヲ誘起スルコトナキヤニ就キ深甚ナル考慮ヲ払フヘキコトヲ切望ス」

(2) 将來ノ借款申出ニ対シテハ其ノ使途ト金額トノ如何ヲ問ハス外債整理ト関連シ又之ノ実行ヲ条件トスルニ非レハ問題トセサルコトヲ支那側ニ徹底セシムルコト

第一 対支利權ニ關スル件
現今ノ如ク利權回収熱並排日ノ風潮莊ナル時代ニ於テハ露骨ナル利權獲得運動ヲ為スハ得策ニ非ス寧ロ暫ク既存利權ノ擁護ヲ眼目トシテ進ムコト但炭田ノ開発ノ如キ独立支那ノ問題タルノミナラス我国ノ軍事産業ニモ重大影響アル問題ニ就テハ常ニ之カ調査ヲ怠ラス殊ニ第三國ノ独占権ヲ予防シ若シ協同經營可能ナル時期至ラハ必

要ニ応シ日支提携シ若シクハ目下ノ本邦ノ金融狀態ニ鑑

(造幣局資金ノ一部ヲ銀ニテ保有スル案並日銀ノ正貨準備中銀保有問題モ之ト関連シテ攻究ノ要アリ)

(2) 正金ヲシテ関税保管銀行タラシメ以テ其資力増加ヲ計ルコト

(3) 支那ニ於テ事業ヲ為ス金資本ノ会社カ金銀相場ノ変動ヨリ来ル損失補填ノ為ニ採レル方法ノ実例ヲ調査シ本邦ノ金資本会社ヲシテ最良ノ方法ヲ採用セシムル様態漸スルコト

(4) 日本内地ニ銀取引所ヲ設置スルノ可否ヲ講究スルコト

第四 対支事業会社ノ機能復活ニ關スル件

本邦ノ対支投資又ハ企業会社トシテハ支那専門ノ会社トシテ東拓アリ、東亜アリ、中日アリ其ノ他兼業ノ会社ト

シテハ大倉、三井、三菱等枚挙ニ遑アラサルモ其ノ多クハ本邦大正九年ノ財界反動又ハ今回ノ大震災ニ因リ或ハ支那ニ資金ヲ固定セル為委靡困憊ノ極ニ在リ殊ニ支那

門ノ前記諸会社ニ於テ然リトス故ニ此ノ際対支經濟活動ノ發展ヲ期セムトセハ先ソ是等対支投資又ハ企業会社ノ整理ヲ实行シ以テ其ノ活動力ヲ恢復セシムルコト最大緊要事ナリトス、仍テ此ノ際其ノ具体的方法ニ付講究ヲ進

ミ進ンテ第三國トモ協調シテ之カ衝ニ当ルノ用意ヲ為シ置クコト殊ニ日英又ハ日米ノ対支企業提携ノ具体的方法ニ付攻究スルコト

第三 対支貿易及企業獎励ニ關スル件

我國際貸借ノ不利ナル今日対支貿易ノ發展策ヲ講スルコトハ焦眉ノ急務ナリ、之カ方策トシテ考慮スヘキ問題左ニ付攻究スルコト

ノ如シ

「日支ノ緊密ナル經濟的提携ハ排日風潮根絶ノ有力ナル手段ナリ之カ為ニハ金融企業等諸般ノ事業ハ努メテ日支合弁ノ形式ヲ採ルコト必要ナルヘシ

又排貨緩和手段トシテ最緊要ナルハ我對支產業政策ノ改善ニシテ支那人ノ模倣シ得サル精巧ナル製品ノ製作及嗜好品ノ低廉供給等一手段ナリ而シテ之力為ニハ徹底セル支那產業ノ統一調査機關ノ設立ヲ緊要急務トス」

(1) 排日風潮ノ緩和ニ力ムルコト之カ為ニハ所有有効ナル手段ヲ講スルコト

(2) 支那ニ本店ヲ有スル日資又ハ日支合弁ノ銀資本会社ノ発達ヲ計ルコト

(3) 本邦政府民間ノ銀資金ノ充実ヲ計ルコト

第五 南滿州ノ經濟的地位ニ關スル件
南滿州ヲ以テ我經濟的領土トナスコトハ我国ノ伝統的政策ト目シ得ヘシ然ルニ近時遼東利權回収乃至東支回収問題ノ旺ナルニ比シ此ノ政策ノ基礎ニ动摇ヲ來ス惧アルニ至レリ若シ今後共此政策ヲ維持遂行セントセハ滿鐵及東

拓ノ事業ヲ初メ鮮銀其ノ他金融機關ノ機能ニ関シ再考ヲ加フルノ必要大ナリトス又單ニ滿鐵沿線ニ勢力ヲ墨守スルニ止マラス進ンテ奥地經營ニ意ヲ用ユルノ要アリ又吉会線吉開長洮諸鉄道ノ速成問題モ之ニ関連シテ考慮スルノ要アリ

(付箋1)

主義ニ於テ同意ナルモ我邦從來ノ対支發展ノ成績ニ鑑ミ中小資本家援助ニ就テモ相當考慮ノ要アルヘシ

(付箋2)

南滿ニ於ケル我經濟的基礎ヲ動搖セシメサルカ為ニハ差當リ張作霖ヲ支持シ其ノ地位ヲ安定ナラシムルコト亦其一要件ナリ、從ツテ張作霖援助ニ関シテハ其他一般支那問題ト切り離シテ特ニ考慮ヲ加フルノ要アリ

(第八号)

大正十三年二月二十八日提出外務省亞細亞局長案ニ對
スル陸軍側意見

(三月十五日)

対支政策綱領

一、華府會議ニ於テ協定セル諸條約及決議ヲ尊重スルコト
(1) 華府諸條約及決議中ニハ多少不備ナル点ナキニアラサ
ルモ首要ナル事項ハ多ク既成ノ主義乃至事態ヲ確認シ
タルニ止マリ我国ニ取り毫モ不利益ナル規定ナキノミ
ナラス之ニ依リ将来現出スルコトアルヘキ列國ノ野心
ヲ制禦シ得ヘキニ付支那ト特殊ノ關係ヲ有スル我国ニ
於テ率先シテ之ヲ尊重スルノ態度ニ出ツルコト

(2) 近年頻ニ唱道セラルル國際管理説ハ絶対ニ華府條約ノ
精神ニ戾ルヲ以テ我国ハ事柄ノ如何ヲ問ハス極力其實
現ヲ阻止スルコト

(3) 華府諸條約ハ仏國ニ於テ批准ヲ拒否シ居ル為未タ効力
ヲ發生セサル所該條約ノ速ニ実施セラレムコト諸般ノ
關係上望マシキニ付我国ニ於テ徐ニ米國ト意見ヲ交換
シ仏國ノ批准促進ヲ図ルコト從ツテ仏國批准拒否ノ最
大原因タル金法問題ノ解決ニ關シ適宜斡旋ノ労ヲ取ル

(付箋6)

努ムルカ如キハ固ヨリ此ノ限ニアラス

(4) 正當政府以外ノ地方實力者ト公的關係ヲ持続シ之ニ相
當ナル援助ヲ与フルコトハ嚴格ニ云ヘハ一黨一派ヲ支
持スルノ嫌ナキニアラサルモ革命以来ノ混沌タル支那
ノ政情ニ顧ルトキハ單ニ中央政府ノミヲ以テ対支那閥
係ノ對手方ト看做スコトヲ得サルハ多言ヲ要セサル所
ナリ從ツテ中央政府トノ關係ヲ重ンスヘキハ勿論ナル
ト共ニ地方實力者トノ關係ヲ輕視スルコトナク即チ中
央地方ニ亘リ偏ク良好ナル關係ヲ持続シ且ツ相当ノ援
助ヲ与ヘ同時ニ其權内ニ於テ我国ニ対シ出來得ル限り
ノ利便ヲ与ヘシムルノ方針ヲ取ルコト

(5) 内政不干涉主義ヲ以テ無為無策主義ナリトノ誤解ヲ抱
クモノアルモ我国ハ常ニ支那ニ対シ政治上及經濟上積
極的措置ニ出ツヘキコト当然ニシテ此等積極的措置ハ
内政不干涉主義ノ下ニ之ヲ行フコト格別困難ナル次第
ニアラス

(6) 支那ノ現状ニ顧ミ政治借款ヲ供給スルコトハ動モスレ
ハ一党一派ヲ援クルノ結果ヲ齎ラン自然統一ヲ妨クル
ノミナラス内ニ於テハ徒ニ軍備ノ增大ヲ來タシ外ニ於

コト

(2) 華府諸條約実施ヲ俟ツテ成ルヘク速ニ關稅會議ヲ開キ
二分五厘付加税ヲ決定シ支那ノ對外債務ヲ整理セシム

ルコトシ其ノ機會ニ寺内内閣時代ノ借款其他ノ我担保
不確實ナル債権ノ確保ヲ圖リ同時ニ支那ヲシテ其通
商貿易ノ發展ヲ阻害スル不当課稅其ノ他各般ノ制限的
事項ヲ改メシムルコト

(3) 支那軍備ノ縮少ヲ希望スルハ列國ノ一致スル所ナルノ
ミナラス又支那一般民論ノ趨向ニ鑑ミ我国ニ於テ其手
段方法ノ如何ヲ問ハス支那ニ對シ兵器供給其他ノ軍事
的援助ヲ与ヘサルコト

(4) 不干涉主義ヲ恪守シ一黨一派ヲ支持セサルコト
(1) 我国ニ於テ支那ノ内政ニ干渉シ又ハ一黨一派ヲ支持シ
之カ為畜ニ所期ノ目的ヲ達セサルノミナラス却ソテ支
那一般ノ反感ト列國ノ誤解ヲ招キタル事例歟ナカラス
将来ハ已往ノ失敗ヲ繰返ササル様最善ノ注意ヲ以テ國
論ヲ指導スルコト肝要ナリ但シ支那ノ和平統一促進上
一派ニ対シ好意的勧告ヲ与フルカ如キ又ハ我国ノ自衛
上絶対ニ不得已場合一黨一派ノ行動ヲ阻止スルコトニ

(付箋5)

二、不干涉主義ヲ恪守シ一黨一派ヲ支持セサルコト
(1) 我国ニ於テ支那ノ内政ニ干渉シ又ハ一黨一派ヲ支持シ
之カ為畜ニ所期ノ目的ヲ達セサルノミナラス却ソテ支
那一般ノ反感ト列國ノ誤解ヲ招キタル事例歟ナカラス
将来ハ已往ノ失敗ヲ繰返ササル様最善ノ注意ヲ以テ國
論ヲ指導スルコト肝要ナリ但シ支那ノ和平統一促進上
一派ニ対シ好意的勧告ヲ与フルカ如キ又ハ我国ノ自衛
上絶対ニ不得已場合一黨一派ノ行動ヲ阻止スルコトニ

(付箋4)

三、対支一般國際關係ヲ變理スルニ當リテハ國際協調ヲ主
眼トスヘキモ日支ノ特殊關係ニ顧ミ必要ノ場合ニハ必ス
シモ他ニ追随セス独自ノ主張ニ基キ自主的行動ニ出ツル
コト九國條約其他ノ國際協定ノ精神ニ則リ対支一般國際
關係ノ變理ニ當リ國際協調ヲ主眼トスヘキハ論ヲ俟タス
ト雖列國ノ態度ニシテ若シ九國條約其ノ他ノ國際協定ニ
悖ルカ如キ行動ニ出ツル場合ニハ敢然之ヲ阻止セサルヘ
カラス過般臨城事件ニ關スル鐵道警備問題ニ關シ帝国カ
支那ノ行政保全ノ見地ヨリ根本的修正案ヲ提議シ遂ニ列
國ヲシテ之ヲ承服セシメタル如キ此ノ例ナリ

又帝國ハ支那ニ対シ特殊緊密ノ關係ヲ有スルコト他列國
ノ比ニアラサルヲ以テ常ニ他ニ先シテ機宜ノ方策ヲ定
メ之ヲ以テ他ヲ指導スルヲ期スルコト

四、権利擁護

最近殊ニ華府會議以来帝国政府ハ日支両国ノ関係改善並ニ世界ノ平和ヲ顧念シ帝国ノ支那ニ於テ有スル各種ノ権利ヲ拠棄セリ

右ハ要スルニ永遠ノ利害ヲ打算シタル結果ニシテ大局ニ於テ裨益スル所専ナカラサリシト思料ス然ルニ支那ハ所謂望蜀ノ念ニ駆ラレ今尚種々ノ利権回収運動ヲ試ミ殆ン

ト底止スル所ヲ知ラサルモノノ如シ、帝国トシテハ際限無クスル要求ニ耳ヲ傾クルヲ得サルハ勿論ナルカ混沌タル現下ノ支那政局乃至支那ヲ中心トスル最近ノ國際關係ノ推移ニ顧ミ此ノ際対支方針ニ一段落ヲ画シ從来ノ讓歩的態度ヲ改メ今後ハ苟モ条約慣行ニ依リ正当ニ有スル権利ハ飽ク迄モ之ヲ擁護シ一步モ讓ラサル態度ヲ採ルノ必要アリ所謂二十一ヶ条問題ノ如キモ若シ支那側ヨリ再ヒ提議シ來ラハ直チニ之ヲ峻拒シ右ニ對スル支那側ノ態度如何ニ依リテハ断乎タル措置ニ出ツルヲ要ス
但シ我国已得ノ権利ト雖モ時勢ノ推移ト事態ノ変遷ニ伴ヒ今日之ヲ拠棄スルモ我地歩ノ確保上何等不利益ナキノミナラス反テ諸般ノ關係殊ニ我經濟的勢力進展上有利ナ

五、居留民保護

(1) 法務改善

支那ニ於ケル本邦人ノ発展ヲ期セムトセハ其ノ権利関係ノ確保ニ努メサルヘカラス、華府會議ニ於テハ治外法權撤廃ニ關スル決議ノ成立ヲ見事情調査ノ為支那ニ委員会ヲ開催スヘキコトヲ定メタルモ今尚開催ニ至ラサル有様ナルノミナラス今日ノ情勢ヲ以テシテハ右委員会ノ開催ヲ見ルモ果シテ何時之カ撤廃ノ実ヲ挙ケ得ヘキヤ殆ント予想タニ為シ得サル状態ナルヲ以テ当分之ニ関係ナク從来ノ我領事裁判制度ヲ改善シ居留民ノ権利伸長ヲ期セサルヘカラス最近実施ヲ見タル司法事務専任ノ領事制度ノ如キ即チ右改善ノ一端ナルヲ以テ将来益々之カ改善進歩ヲ計ルノ要アリ

(2) 警察改善及不良分子取締ノ励行

振興ヲ計ルコト

(1) 朝鮮人及台灣籍民ノ保護取締

在滿約百万ノ鮮人及南支數万ノ籍民ニ對シテモ又叙上ノ方針ニ依リ保護取締ヲ行フヘキハ勿論ナルモ之等新付ノ民ニ對シテハ特ニ考慮ヲ払ヒ其ノ不良不逞ノ徒ニ對シテハ嚴重ナル取締ヲ實行スルト同時ニ之カ撫育助長ニ努ムルコト

尚朝鮮台灣ニ於テモ土着民ニ生活ノ安定ヲ得セシメ漫然海外ニ移住セムトスル傾向ヲ生セシメサル様施設ニ注意スルコト

六、友好的精神ト公正ナル態度ヲ以テ国民的諒解ヲ図ルコト

日支両国民ノ感情融和意志疏通ハ対支政策実行ノ基礎ナリ而シテ此ノ目的ヲ達成セムトセハ相互ニ相敬相親ノ精神ヲ以テ蒞マサルヘカラス由來我國民ハ日清戰爭時代ノ敵愾心ニ依リ養ハレタル支那人侮視ノ偏見ヲ脱セス動モスレハ之ヲ劣等国民視セムトスル傾アルノミナラス一般ニ偏狭ニシテ國際的融合ノ素質乏シ之ノ弊害ヲ匡正スルコトハ日支親善実現ノ一大要訣ナリ

殊ニ此点ハ国民教育ニ於テ大ニ注意スルノ要アリ尚此ノ目的ヲ以テ実業界ハ勿論学界思想界等各方面ノ連絡交歓ヲ助成スルコト

(付箋1)

冒頭ニ主義方針ヲ確定シ置クノ要アリ

(付箋2)

米国提唱ノ裏面的事情ニ照ス時ハ帝国カ絶対ニ本会議ニ信頼服従スルハ得策ナラス但支那ノ國際管理制度ノ為ニハ適恰ナル看板ナルヲ以テ之ヲ道具トシテ利用スルハ素ヨリ可ナリ

(付箋3)

東三省ハ我民族ノ生存、国防關係等ニ特殊關係ヲ有スルニ鑑ミ之ニ対スル政策及施設ハ自ラ他ト異リ積極的ナルヲ要ス、就中一、東三省ノ現勢ヲ動搖セシメサル為張作霖ノ支持、二、經濟交通殖民上ノ發展、三、不逞鮮人ノ取締等ニ關シ特ニ一項ヲ設クルノ要アリ

(付箋4)

支那軍備ハ今日尚社会政策上ノ一手段ナルヲ以テ之カ縮小整理ニハ地方開発ヲ伴ハサレハ實行至難ナリ又之カ実

絶対ニ反対スヘキハ勿論ニシテ之カ為對外的ニ内政不干渉ヲ表看板トスルハ敢テ不可ナカラシ

(付箋6)

地方ニ良好ナル關係ヲ結フコトハ全然同意ナリ

然レ共支那ハ目下利害相反スル党派ニ分裂シアルヲ以テ甲ヲ援助セハ乙ノ反感ヲ招キ而カモ甲乙同時ニ満足ナル援助ヲ与フルコトハ不可能ナリ、結局帝国ノ立場上必要ナル方面ヲ援助スルニ至ル、蓋シ已ムヲ得サル帰結ナリト信ス

(付箋7)

支那自力ニテ統一スルコトハ近キ将来實現至難ナリ故ニ日本ニシテ統一ノ實現ヲ策スルニ於テハ勢ヒ政治借款ヲ必要トスルノミナラス列国ニシテ之ヲ企図スル場合ニハ日本亦之ニ応スルノ要アリ、即チ支那統一迄政治借款ヲ為サストナスハ稍適當ヲ欠ク嫌アリ寧ロ何時ニテモ之ニ応スルノ準備アルヲ要ス

(付箋8)

不良分子ノ取締ハ同意ナルモ人口問題解決ノ為邦人ヲ遇スルニ過度ニ峻厳ナルハ一考ヲ要スヘシ

現ニハ節制アル國軍ノ建設ヲ前提条件トナササルヘカラス右ノ見地ヨリ帝国ハ善隣ノ誼ヨリ謂フモ又国防上ノ要求ヨリスルモ軍事改善ニ援助ヲ与フルコト必要ニシテ「必要ナル方法手段ヲ問ハス軍事的援助ヲ与ヘス」トノ

政策ニハ同意スルヲ得ス、対支兵器供給ニ関シテハ目下取極參加國ニ於テスラ尚且陰密輸入ヲ為シアルノミナラス取極以外ノ國アルヲ以テ之ヲ絶対ニ防止スルコトハ不可能ニ属ス

故ニ帝国ハ之ニ対シ根本的方針トシテハ依然該取極ヲ尊重シ飽迄其存続ヲ主張スルヲ得策トスヘキモ日支兩國ノ特殊的關係特ニ滿蒙ノ治安維持ノ必要上兵器供給ヲ行フヲ要スル場合アルヲ顧慮シ該取極支持ニ対シ追テ強硬ナル態度ニ出ツルヲ避ケ寧ロ将来ニ对スル融通ノ余地ヲ存スル如キ態度ヲ採ルヲ妥当トスヘシ

(付箋5)

日支特殊關係ニ鑑ミ帝国ハ必シモ不干涉ニ膠着スルヲ得策トセス、要ハ進ンテ援助ヲ与ヘ其ノ内政改善、時弊刷新ヲ企図シ日支提携ノ実ヲ挙クルニ在リ、但シ列国ヲシテ支那ヲ國際管理ニ導カシムルカ如キ干渉ニ対シテハ

(付箋9)

尚一步ヲ進メテ中等教育機關ヲ北支那及中支那ニ少クモ一個宛設クルノ要アリ

(第九号)

大正十三年四月二日稿（四月十四日関係局長ニ配布セル第一回案ハ本案ヲ整理改作セルモノ也）

対支政策綱領（未定稿）

方今我國政ノ急務ハ專ラ平和主義ニ立脚シテ經濟的實力ノ伸長ヲ図リ以テ國富ヲ増進シ財政ノ基礎ヲ安固ナランメ國家百年ノ大計ヲ定ムルニ在リ之カ為内外ニ亘リ施設スヘキ事項多々アルヘキモ就中隣邦支那トノ間ニ親善緊密ナル關係ヲ結ヒ其ノ無尽ノ富源ヲ対象トシテ經濟的提携ノ方策ヲ進ムルコト最モ肝要ナリトス
叙上ノ見地ヨリシテ帝国ハ支那ノ独立及ヒ領土保全ヲ以テ伝統的政策トシ進ンテ其ノ施政ノ改善ニ援助ヲ与ヘ国内統一ノ機運ヲ助成スヘキハ勿論常ニ公正正穩健ナル態度ヲ以テ支那ニ莅ミ其ノ信頼ヲ深カラシムルト共ニ他面支那ニ於ケル我既得ノ権利及利益ヲ堅持シ支那及列国ヲシテ極東ニ於ケル帝國ノ地位及實力ヲ認識セシムルコトニ努メサルヘカ

ラス

以上ノ根本方針ニ基キ左記綱領ニ依リ対支関係ヲ律スルコト

第一 政治関係

一、華府ニ於テ協定セル九国条約及付帯決議ノ趣旨ヲ尊重シ該条約ニ依リ確認セラレタル支那ノ主権、独立及領土的行政的保全並ニ門戸開放及機会均等ノ主義ヲ恪守シ将来列國ノ行動ニシテ此等ノ主義ニ抵触スルカ如キ場合ニハ帝国ニ於テ極力之ヲ阻止スヘキハ勿論支那ノ主権ヲ侵害スルカ如キ國際管理制度ヲ強要セムトスル企図ニ対シテハ予メ之ヲ抑制スル為機宜ノ措置ヲ執ルコト

二、支那ノ对外関係ヲ處理スルニ當リ國際協調ヲ重ンスヘキハ論ヲ俟タサル所ナルモ日支両國ノ特殊關係ニ顧ミ帝國ハ常々指導的態度ヲ以テ列國ニ莅ミ且ツ我対支根本方針ヲ確保スル為必要ト認ムル場合ニハ進ンテ自主的行動ニ出ツルコト

三、支那ノ内政ニ關シ不干渉主義ヲ持スヘキコト當然ナルモ其ノ施政ノ改善ニ對シ援助ヲ与フルコト毫モ之ト抵触スルモノニアラサルニ顧ミ此ノ目的ヲ遂行スル為所有機

会ヲ利用シ積極的態度ニ出ツルコト必要ナリト認ム尤モ支那ノ現状ニ顧ミ單ニ中央政府ニノミ偏倚スルコトナク出来得ル限り広く地方実權者トノ間ニモ良好ナル関係ヲ持続シ且ツ當該地方ニ對スル帝国ノ利害關係ニ応シ此等實權者ニ与フヘキ援助方法ニ付適宜調節ヲ加ヘ以テ各方面ニ對スル我勢力ノ伸長ニ備フルコト

四、支那ノ現状ニ顧ミ政治借款ノ供給ハ大ニ考慮ヲ要スル所ナルヲ以テ政局安定ヲ告ケ且ツ財政整理ノ方案確立セサル限り当分之ニ応セサルコトトシ四國財團ニ對シテモ此ノ方針ノ下ニ指導ヲ怠ラサルコト尤モ外債整理等ノ關係上必要ニ応シ小額ノ政費ヲ融通スルカ如キ場合ハ此ノ限リニアラス

五、軍事ノ改良ハ施政改善ノ一端ナルヲ以テ帝国ニ於テ之カ為支那ニ對シ相當援助ヲ与フルコト必要ナルヘク從ツテ顧問、教官及技術者ヲ應聘セシメ又ハ支那学生ニ對シ軍事教育ヲ与フルカ如キハ當然ナスヘキノ事項ニ属スルモ支那政局ノ現状ニ顧ミ其实行上細心ノ注意ヲ払ハサルヘカラス又兵器ノ供給ハ國際協定ニ依リ之ヲ禁止シ居ルニ顧ミ帝国ニ於テ誠実ニ該協定ノ趣旨ヲ恪守スヘキコト

勿論ナルモ常ニ支那及ヒ列國ノ態度ヲ注視シ機宜ノ方策ヲ講スルノ用意ナカルヘカラス

六、帝国ハ四匪ノ情勢ニ余儀ナクセラレ近年支那ニ對シ幾

多ノ讓歩ヲナセルモ此際対支方針ニ一段落ヲ画シ苟モ條約又ハ慣行ニ依リ正当ニ享受セル權利及利益ハ飽迄之ヲ堅持シ以テ支那ニ於ケル我地歩ヲ確保スルコトニ努メサルヘカラス尤モ既得ノ權利及利益ト雖モ我經濟的勢力ノ伸長上得策ト認ムル場合ニハ自發的ニ之カ調整及改廃ヲ図ルコト

七、從来我國民一般ニ帝国ノ存立対支關係ノ重要ナル所以

殊ニ經濟的提携ノ急務ナルコトヲ十分ニ体得セサルモノノ如ク從シテ動モスレハ侮蔑的態度ヲ以テ支那ニ莅ミ彼我感情ノ融和ヲ妨げタルハ蔽フヘカラサルノ事實ナリ速ニ此傾向ヲ一新スルコト対支關係改善上緊要ト認ムルヲ以テ此際我國民一般ニ支那ニ關スル智識ヲ普及スル為必要ナル方法ヲ講スルト共ニ友好的精神ト公正平等ナル態度トヲ以テ支那ヲ迎ヘ兩國間ニ完全ナル國民的諒解ヲ図ルコトニ努メシムル為適當ナル指導ヲ與フルコト肝要ト認ム之力為着手スヘキ事項尠ナカラサルヘキモ先ツ國民

教育上支那關係ニ相當重キヲ置クノ方針ヲ執ルカ如キ蓋シ適切ナル方法ノ一ナルヘシ

第二 経済關係

一、支那ノ政局安定ヲ告ケ且ツ財政整理ノ方案確定セサル

限り政治借款ヲ供給セサルノ方針ヲ執ルヘキコト前述ノ通りナルモ實業借款ニ至リテハ我資本家ノ自由供給ニ一任シ政府ニ於テ叨ニ干渉セサルコト得策ナリト認ム尤モ我國防及國民的生存ニ重要ナル關係ヲ有スル鐵道其ノ他交通及通信施設並ニ首要產物又ハ企業ニ對スル借款供給ニ付テハ適宜指導獎勵スヘキハ勿論必要ト認ムル場合ニハ政府ヨリ資金ヲ融通シ積極的援助ヲ與フルコト

二、關稅條約ノ實施ヲ俟チ成ルヘク速ニ同條約所定ノ會議

ヲ開キ輕易ナル条件ノ下ニ二分五厘付加稅ノ成立ニ努力シ其機會ヲ以テ支那ヲシテ寺内内閣時代ノ諸借款及其ノ他ノ担保不確實ナル借款ノ整理ヲ實行セシムルコト

三、支那ノ天然資源ヲ開發シ我經濟力ノ發展上欠クヘカラサル燃料及原料ノ供給ヲ豊富ナラシムルコト極メテ肝要ナルヲ以テ之カ為必要ナル調査及施設ヲ怠ラサルコト就中軍需上及工業上重要ナル關係ヲ有スル鐵、錫、鉛、石

炭、石油、棉花、羊毛等ノ供給ヲ確保スル為最善ノ努力

ヲ必要トス尤モ現時ノ趨勢ニ鑑ミ独占的利權トシテ此等ノ事業ヲ我ニ收ムルコト困難ナルヲ以テ寧ロ当初ヨリ日支共同經營トナスノ方針ニ出ツルコト得策ナルヘク且ツ我財界ノ現況ニ顧ミ資金關係上必要ト認ムル場合ニハ米國又ハ英國ト提携スルノ方策ヲ講スルコトモ亦一策ナルヘシ

四、対支一般貿易及企業ノ發展ヲ図ルコト焦眉ノ急務ナルヲ以テ之力為所有方策ヲ研究實行スルコト必要ナリ就中重要ナルハ政府及民間ノ銀資金充実ヲ図リ以テ支那ニ於ケル我經濟的活動上銀資金ノ融通力ヲ拡張シ徐ニ支那銀市場ニ於ケル実權ヲ掌握スルノ方途ニ出ツルニ在リ之ト

同時ニ我對支金融機關及投資機關ノ整理併合ヲ行ヒ無益ノ競爭ヲ防キ其ノ活動力ノ増進ヲ図ルコトニ努メサルヘカラス尚ホ他面支那ヲシテ鉱業其ノ他重要企業上外國ニ對スル各種ノ制限及ヒ穀類其他重要原料ノ輸出ニ對スル制限ヲ解除又ハ緩和セシメ且ツ外國人及外國品ニ對スル各種ノ不当課税及内外品ニ對スル差別待遇ヲ矯正セシメ以テ我貿易及企業ノ發展上障害ヲ除ク為適當ナル措置ヲ

執ルコト

五、支那ニ關スル經濟調査ハ貿易及企業發展ノ指針タルモノニシテ政府ニ於テ最善ノ努力ヲ以テ實行スヘキモノナルニ拘ラス從來其成績ノ見ルヘキモノ甚タ尠ナン是レ各官厅及会社ニ於テ各々獨立シテ調査研究ヲ行ヒ協力綜合ノ足ラサルノ致ス所ナルヘキヲ以テ此際適當ナル施設ノ下ニ徹底的ニ調査ノ歩ヲ進ムルト共ニ各官厅及民間ノ調査材料ヲ蒐集整理シ廣ク世上ニ頒布スルノ途ヲ啓クコト緊要ナリト認ム

第三 在留民保護取締關係

一、日支兩國間ニ緊密ナル關係ヲ樹立シ經濟的勢力ノ伸長ヲ図ラムトセハ先ツ前線ニアル支那在留邦人ニ必要ナル保護ヲ与ヘ其ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルト共ニ適當ナル取締ヲ加ヘ之ヲ善導セサルヘカラス此見地ヨリ施設スヘキ事項不尠ヘキモ就中領事裁判制度ヲ改善シ司法事務專任領事ヲ増置シ以テ在留民ノ権利伸長ヲ期スルト同時ニ我警察機關ノ拡張及ヒ改善ニ意ヲ須イ不良分子ノ取締及排除ニ努力シ以テ支那在留邦人ノ健全ナル發展ヲ図ルコト急務ナリト認ム

二、支那在留邦人ノ增加ト共ニ各地方ニ於ケル我教育施設

ノ振興ヲ圖ルコト肝要ナルカ現時此等施設ハ専ラ資力乏シキ民團又ハ個人ノ經營ニ属シ國庫補助ノ如キハ之ヲ内地ニ比シ厚薄同日ノ談ニアラス此際政府ニ於テ在支子弟ノ教育ニ最善ノ努力ヲ注キ國庫補助金ヲ増額シテ國民教育ノ完備ヲ圖ルト共ニ必要ニ応シ國費ヲ支出シ中學程度ノ各種教育施設ヲ拡張スルコト適當ト認ム

三、支那在留邦人ノ經濟的活動ヲ助成スル為各地民團ノ衛生其ノ他公共的施設ニ對シ政府ヨリ資金上ノ援助ヲ与フルト共ニ現行所得稅法ヲ改正シ支那ニ於ケル邦人ノ所得ニ對シ課稅ヲ免除シ其負担ヲ輕減スルコト

四、在滿數十萬ノ鮮人及南支數万ノ台灣籍民ニ對シ撫育保護及取締ヲ十分ナラシムルコト刻下ノ急務ナルカ之カ統一ヲ圖ル為從來朝鮮總督府及台灣總督府ニ於テ行ヒ居レル撫育ニ關スル施設ハ擧ヶテ之ヲ外務省所管ニ移シ必要ナル經費ヲ國庫ヨリ支弁スルコト同時ニ朝鮮及台灣ニ於テ土着民ノ生活ノ安定ヲ期スル為施政上一段ノ注意ヲ払ヒ彼等カ一定ノ成業ナクシテ漫然支那領域ニ移住スルノ傾向ヲ阻止スルコト緊要ナリト認ム

一、張作霖ハ中央政府ノ任命セル正式官憲ニアラサルモ現下東三省ノ実權其掌中ニ在ルノ事実ニ顧ミ滿蒙ニ對スル帝国ノ政策實行上彼ト良好緊密ナル關係ヲ保チ且ツ治安

維持民力増進等ノ正当ナル目的ニ対シ常ニ十分ナル援助ヲ与フルコト必要ナリト認ム尤モ右援助ハ張ノ一身一家ニ対スルモノニアラシムテ東三省ノ実權者タル彼ノ地位ニ対スルモノナルコトヲ根本的觀念トシ從ソテ我援助ニ依リ彼ヲシテ中央政局ヲ把握セムトスルカ如キ野心ヲ助長セシメサルコトヲ旨トセサルヘカラス同時ニ張作霖ヲシテ其現実ノ勢力ナルモノハ要スルニ東三省ニ対スル帝國ノ実力ヲ背景トスルモノナルコトヲ明確ニ自覺セシムルコト絶対ニ必要ナルニ顧ミ政府ニ於テ我文武官憲及在留邦人ヲ指導シ常ニ相当権威ヲ以テ彼ニ莅ミ苟モ阿付迎合的態度ヲ示シ彼ノ自負心ヲ增長セシムルカ如キコト之ナキヲ期セサルヘカラス殊ニ我政策實行ノ便ヲ慮ルノ余リ輕々敷ク武器供給ヲ予約スルカ如キ姑息ナル方法ハ嚴ニ之ヲ避ケルコト

二、滿蒙ニ於ケル我既得ノ権利ヲ確保スルノ方針ヲ堅持スヘキハ因ヨリ当然ナルモ同時ニ地方ノ実情ニ応シ之力活用ヲ期セサルヘカラス然ルニ關東州及鐵道付屬地ニ対スル從來ノ施設ヲ見ルニ動モスレハ法律的地位ノ維持ニノミ汲々トシテ經濟的活用ノ方面ヲ閑却セル嫌ナキニアラ

五、滿蒙ニ於テ我經濟力ノ發展上土地商租ニ關スル條約ノ

權利ヲ實行スルコトニ努力スヘキハ勿論ナルモ右ハ諸般ノ關係上其目的ヲ達スルコト容易ナラサルニ顧ミ此際先ツ東三省官憲トノ間ニ暫行的弁法ヲ協定スルノ方針ニ出ツルコト尚未鐵道ノ敷設ハ滿蒙ニ於ケル產業ノ開發秩序保持上重大ナル關係アルノミナラス同地方ニ対スル我地歩ヲ益々鞏固ナラシムル為緊急ナルヲ以テ別紙（滿蒙地方ニ於ケル鐵道敷設促進案）ニ依リ速ニ之カ實行ヲ期スルコト急務ナリト思考ス

六、滿蒙地方ニ於ケル鐵道敷設促進案

滿蒙地方ニ於ケル鐵道敷設ニ関シテハ日支間ニ屢々協定ヲ經タルニ拘ラス各種ノ事情ニ依リ一小部分ノミ實現セラレタルニ過キス而モ鐵道ノ敷設ハ產業ノ開發秩序ノ保持上重大ノ關係ヲ有スルノミナラス同地方ニ対スル我地歩ヲ益々鞏固ナラシムル所以ニ付此際大体左記方針ノ下ニ其ノ促進ヲ図ルコト急務ナリト思考ス

甲 促進ヲ図ルヘキ鐵道

(1)此ノ際先ツ左記留保線ノ敷設促進ヲ図ルコト

一、開原海龍吉林線（場合ニ依リテハ奉天海龍吉林線

一一 「対支政策綱領」関係 七三七

トスルモ差支ナカルヘシ

一、吉会線ノ一部タル吉林敦化線（敦化ヨリ間島ニ至ル線ハ暫ク飯田延太郎計画ノ天団鐵道延長計画ニ委

スルコト然ルヘシ）

一、長春洮南線（本線ハ伯都訥大齊ヲ経過スルコトト

シ差当リ大齊ニ止ムルコト然ルヘシ）

尚此際洮南齊々哈爾線敷設ノ急務ナルコトヲ唱道スルモノアルモ同線ハ我留保線ニアラサルノミナラス滿蒙留保問題當時ニ於ケル國際間ノ行懸り並ニ其ノ露国側ニ与フルコトアルヘキ反響ニ顧ミ暫ク他日ノ問題ニ譲ルコト

(2)賓黑鐵道ニ付テハ同鐵道権利者露亞銀行トノ間ニ新「シンヂケート」ヲ組織シ右數設資金ヲ引受クルノ契約成立シアル處右契約ハ來ル六月ヲ以テ期限満了スル

ニ付不取敢更ニ相當期間ノ延長ヲ図ルコト尚右延長ニ付テハ從來ノ行懸上矢張正金銀行ノ名義ヲ用フルコト（本件延長ニ付テハ前貸ノ半額二十五弗ノ分担支出ヲ要スル處右ハ政府ニ於テ便宜滿鐵ヲシテ支出セシムル力又ハ直接正金ニ對シ適當ノ方法ニテ資金ヲ融通スル

ス元來此等ノ地域ハ滿州ヲ貫ク大動脈ナルニ顧ミ日支両國利益共通主義ノ下ニ支那人ヲシテ自由ニ之ヲ利用セシムルト共ニ專ラ奥地トノ經濟的關係ヲ円滑ナラシムル為適當ナル施設ヲナスコト必要ナリ就中大連海關ノ制度ヲ元青島海關ノ制度ニ改ムルカ如キ又ハ鐵道付屬地内ノ工業製產品ニ対シ一定ノ形式ニ依リ支那官憲ニ貢納金ヲ支払ヒ奥地販運ヲ容易ナラシムルカ如キ又ハ日支交通通信系ノ連絡ヲ拡張スルカ如キ事項ニ対シ速ニ適當ナル方策ヲ考出スルコト

三、滿州ニ於ケル我行政機關統一ニ關シ多年政府ニ於テ攻究實施スル所アリタルモ未タ所期ノ目的ヲ達スルニ於テ遺憾ナキ能ハス此際更ニ攻究ヲ遂ケ行政ノ統一及運用上最善ノ方策ヲ定ムルコト

四、南滿州鐵道會社ハ我滿蒙ニ対スル經濟的活動ノ根幹タルヲ以テ政府ニ於テ關係官庁ヲ代表スル監督機關ヲ設ケ其業務及會計ニ對シ厳密ナル監督ヲ加ヘ指導ヲ怠ラサルコトニ努力スルト共ニ同會社ノ政府ニ對スル配當金ハ専ラ之ヲ滿蒙ニ於ケル文化及經濟ノ發展ヲ助成スル為使用スヘキ財源ニ充ツルコト

コト)

(2) 鉄道敷設協定ノ形式

前頭諸鉄道敷設ニ付テハ中央政府トノ間ニ商議ヲ遂クヘキ筋合ナルモ此等諸鉄道カ張作霖ノ勢力地域内ニアリ而シテ張對中央政府ノ關係ニ顧ミ張ノ了解ヲ求ムルコト絶対ニ必要ナリ從ツテ中央政府トノ間ニ了解ヲ付クルコトニ努ムルト共ニ機宜ノ手段トシテ先ソ張作霖トノ間ニ了解ヲ遂ケ鉄道敷設ノ促進ヲ図リ徐ニ時機ヲ見テ中央政府ト協定ヲ遂クルノ措置ニ出ツルコト然ルヘシ

(3) 鉄道敷設協定ノ当事者

前掲ノ我留保諸鉄道ハ朝鮮興業台灣三銀行ニ於テ契約上ノ当事者タル処今後此等鉄道敷設促進ニ付テハ滿蒙ニ対スル滿鉄会社ノ使命ニ顧ミ同社ヲシテ出資其ノ他万般ノ衝ニ当ラシムルコト当然且得策ナルヘント思料ス且滿鉄ニ於テ其ノ当事者トナル場合ニハ借款条件ノ如キハ出来得ル限り寛大且ツ實際的トシ工事設計ノ如キモ理想ニ走ラス專ラ鉄道開通ノ迅速ナラムコトヲ期スル方然ルヘシ

(4) 前貸整理

前記我留保諸鉄道ニ付シテハ所謂西原借款ノ一部トシテ

(第十号)

大正十三年四月十四日大臣次官ノ閱覽ニ供シ大体關係ナシト

ノ諒解ヲ得即日關係局長ニ送付 (出淵)

対支政策綱領(未定稿)

(第一回案)

方今我国政ノ急務ハ専ラ平和主義ニ立脚シテ帝国ノ經濟的實力ヲ涵養シ財政ノ基礎ヲ安固ナラシメ以テ國運ノ發展ヲ図ルニ在リ之カ為内外ニ亘リ施設スヘキ事項多々アルヘキモ就中隣邦支那トノ間ニ親善緊密ナル關係ヲ結ヒ其ノ無尽ノ富源及豊富ナル労力ヲ対象トシテ經濟的提携ノ方策ヲ進ムルコト最モ肝要ナリトス

叙上ノ見地ヨリシテ帝国ハ支那ノ独立ヲ擁護シ列國ノ勢力浸漸ヲ防遏スルコトヲ以テ伝統的政策トシ進ンテ其ノ施政

ノ改善ニ援助ヲ与ヘ国内統一ノ機運ヲ助成スヘキハ勿論常ニ公正穩健ナル態度ヲ以テ支那ニ莅ミ其信賴ヲ深カラシムルト共ニ他面支那ニ於ケル我既得ノ権利及利益ヲ堅持シ支那及列國ヲシテ極東ニ於ケル帝国ノ地位及實力ヲ認識セシムルコトニ努メサルヘカラス

以上ノ根本方針ニ基キ此際先ツ左記綱領ニ依リ必要ナル措置ヲ講スルコト

一、支那ニ關スル華府諸條約及付帶決議中ニハ多少不備ナ

合計三千万円ノ前貸交付セラレアリ契約当事者タル三銀行ニ於テハ本契約締結ノ為支那當局ト商議ヲ尽シタルモ纏ラスシテ今日ニ及ヒ而モ右前貸ノ元利ハ極メテ一小部分ノ利子支払アリタル外全部支払停滯シ居レリ

前記鉄道敷設促進ニ當リ右三千万円ヲ新ニ供給スヘキ敷設費ニ割当テ整理ヲ図ラムトセハ自然借款条件ニ至大ノ影響ヲ及ホシ促進ヲ不可能ナラシムルニ至ルヘシト認メラル然ルニ所謂西原借款ナルモノハ之ヲ不確実ナル外債中ニ包含セシメ一併整理スルコト支那側ニ於テ異議ナキノミナラス英國政府ニ於テモ公然同意ヲ表シ居リ其ノ他ノ諸国ニ於テモ故障ナキ見込ニ付前記前貸ハ閑税二分五厘増徵ノ収入ヲ以テ一併整理スルコトトシ前記諸鉄道ハ三銀行ノ關係ヲ離レ滿鉄ヲシテ促進ヲ図ラシムルコト得策ナルヘシト思考ス尙前記留保諸鉄道ニ付テハ大正二年山座公使ト外交總長トノ間ニ交換セラレタル公文乃至間島協約中ニ明約アルニ顧ミ西原借款ノ關係ヲ離ルルモ兩國協定上ノ根拠ヲ失フモノニアラス

及方法ニ付テハ當該地方ニ対スル帝国ノ利害關係ニ応シ
適宜調節ヲ加フルコト

軍事ノ改良ハ施政改善ノ一端ナルヲ以テ帝国ニ於テ之力
為支那ニ對シ相當援助ヲ与フルコト必要ナルヘキモ支那
政局ノ現状及國際關係ニ顧ミ其實行上細心ノ注意ヲ払ハ
サルヘカラス就中兵器供給ノ如キハ國際協定ニ依リ現ニ
之ヲ禁止シ居ルニ顧ミ帝国ニ於テ誠実ニ該協定ノ趣旨ヲ
恪守セサルヘカラスト雖モ他面本問題ニ付テハ支那及ヒ
列國ノ態度其ノ他諸般ノ關係上篤ト考慮ヲ要スルモノア
ルニ付此際攻究ヲ遂クルコト

三、帝国ハ輿近世界大勢ノ推移ニ伴ヒ對支關係ヲ調整スル
ノ必要ニ顧ミ從来支那ニ對シ幾多ノ讓歩ヲナセルモ此際
對支方針ニ一段落ヲ画シ苟モ條約又ハ慣行ニ依リ正当ニ
享受セル權利及利益ハ飽迄之ヲ堅持シ以テ支那ニ於ケル
我地歩ヲ確保スルコトニ努メサルヘカラス尤モ既得ノ権
利及利益ト雖モ我經濟的勢力ノ伸長上得策ト認ムル場合
ニハ自發的ニ之カ調整及改廢ヲ圖ルコト

四、從來我國民一般ニ帝国ノ存立上對支關係ノ重要ナル所
以殊ニ經濟的提携ノ急務ナルコトヲ十分ニ体得セサルモ

専ラ我資本家ノ供給ニ一任スルコト然ルヘキモ鐵道ヲ始
メ交通通信機関ノ發展及ヒ其連絡統一カ支那產業ノ開發
並我國防及國民的生存ニ重要ナル關係ヲ有スルモノアル
ニ顧ミ此等ノ事業ニ對スル借款ニ對シテハ政府ヨリ必要
ニ応シ資金ヲ融通シ積極的援助ヲ与フルコト緊要ト認ム
(別紙山東鐵道延長線敷設促進案参照)

六、支那ノ天然資源ヲ開發シ我經濟力ノ發展上欠クヘカラ
サル燃料及原料ノ供給ヲ豊富ナラシムルコト極メテ肝要
ナルヲ以テ之カ為統一的調查ヲ行ヒ且ツ必要ナル施設ヲ
怠ラサルコト就中軍需上及工業上重要ナル關係ヲ有スル
鐵、錫、鉛、石炭、石油、棉花、羊毛等ノ供給ヲ確保ス
ル為最善ノ努力ヲ必要トス尤モ現時ノ趨勢ニ鑑ミ獨占的
利權トシテ此等ノ事業ヲ我ニ收ムルコト困難ナルヲ以テ
寧ロ当初ヨリ公正ナル利益均分主義ニ基ク日支共同經營
トナスノ方針ニ出ツルコト得策ナルヘク且ツ我財界ノ現
況ニ顧ミ必要ト認ムル場合ニハ米国又ハ英國等ノ資金ヲ
利用スルノ方途ヲ講スルコトモ亦一策ナルヘシ

七、対支一般貿易及企業ノ發展ヲ図ルコト焦眉ノ急務ナル
ヲ以テ之カ為所有方策ヲ攻究实行スルコト必要ナリ就中

ノノ如ク從ツテ動モスレハ侮蔑的態度ヲ以テ支那ニ莅ミ
彼我感情ノ融和ヲ妨ケタルハ蔽フヘカラサルノ事實ナリ
速ニ此傾向ヲ一新スルコト對支關係改善上緊要ト認ムル
ヲ以テ此際我國民一般ニ^(支那ニ)關スル智識ヲ普及スル為必要ナ
ル方法ヲ講スルト共ニ友好的精神ト公正平等ナル態度ト
ヲ以テ支那ヲ迎ヘ兩國間ニ完全ナル國民的諒解ヲ圖ルコ
トニ努ムルコト

五、支那政局安定ヲ告ケ且ツ財政整理ノ方案確立セサル限
リ當分政治借款ニ應セサルコト諸般ノ關係上得策ナリト
認ムルニ付此方針ノ下ニ我資本家及四國財團ニ對シ適當
ナル指導ヲ與フルト共ニ我財界ノ現状ニ顧ミ支那ヲシテ
寺内閣時代ノ諸借款及其他ノ担保不確實ナル借款ヲ整
理セシムル為ニ關稅增徵等ノ機會ヲ利用シ最善ノ努力ヲ
ナスコト

實業借款ニ至リテハ政治借款ト趣ヲ異ニスルニ顧ミ日支
兩國經濟關係發展ノ見地ヨリシテ政府ニ於テ之ヲ獎勵ス
ルノ方針ヲ取ルコト得策ト認ムルモ苟モ過重ナル条件ヲ
強イ經濟提携ノ本義ヲ没却スルカ如キコトナキ様常ニ我
資本家ニ適當ナル注意ヲ與フルコトヲ要ス尚實業借款ハ

重要ナルハ政府及民間ノ銀資金充実ヲ圖リ以テ支那ニ於
ケル我經濟的活動上銀資金ノ融通力ヲ拡張シ徐ニ支那銀
市場ニ於ケル実權ヲ掌握スルノ方途ニ出ツルニ在リト同
時ニ我對支金融機関及投資機関ノ整理併合ヲ行ヒ無益ノ
競爭ヲ防キ其活動力ノ増進ヲ圖ルコトニ努メサルヘカラ
ス尚ホ他面支那ヲシテ礦業其ノ他ノ重要企業上外國ニ對
スル各種ノ制度及ヒ穀類及其ノ他重要原料ノ輸出ニ對ス
ル制限ヲ解除又ハ緩和セシメ且ツ外國人及外國品ニ對ス
ル各種ノ不當課稅及内外品ニ對スル差別待遇ヲ矯正セシ
メ以テ我貿易及企業ノ發展上障害ヲ除ク為適當ナル措置
ヲ執ルコト

八、支那在留邦人ニ十分ナル保護ヲ與ヘ其基礎ヲ鞏固ナラ
シムルト共ニ適當ナル取締ヲ加ヘ彼等ヲ善導スルコト我
對支發展上緊要ナリト認ム之カ為寒行スヘキ事項不勘ヘ
キモ就中領事裁判制度及警察機關ノ拡張改善ヲ圖リ又各
地民團ニ補助金ヲ與ヘ教育衛生其他公的施設ノ完備ヲ期
スルカ如キ何レモ急ヲ要スル事項ト認ム

同時ニ在滿數十萬ノ鮮人及在南支數万ノ台灣籍民ニ對ス
ル撫育保護及取締ニ關シテモ此際關係官府協力ノ上最善

ノ施設ヲナスト共ニ朝鮮及台灣ニ於テ土着民ノ安定ヲ期スル為施設上一段ノ注意ヲ払ヒ彼等カ一定ノ成業ナクシテ漫然支那領域ニ移住スルノ傾向ヲ阻止スルコト九、滿蒙ハ我領土ト境ヲ接シ國防及國民的生存上極メテ深甚且特異ノ關係ヲ有スルヲ以テ帝国ハ飽迄該地方ニ対スル我既得ノ権利ヲ確保シ其地歩ヲ擁護増進スルト共ニ從来我施設ノ乏シカリシ北滿方面ニ向テ更ニ進路ヲ開拓スル為最善ノ努力ヲナシ政治上地理上有利ナル帝國ノ地位ヲ利用シ特ニ滿蒙一帶ニ於テ我經濟的發展ヲ期スルノ方針ヲ以テ万般ノ画策ヲ怠ラサルコトヲ要ス從ツテ滿蒙ニ

対シテハ特ニ左記諸点ニ關シ考慮ヲ加フルコト

(1)現下東三省ノ實權張作霖掌中ニ在ルノ事實ニ顧ミ滿蒙ニ對スル帝國ノ政策實行上彼ト良好緊密ナル關係ヲ保チ且ツ治安維持民力増進等ノ正当ナル目的ニ對シ常ニ十分ナル援助ヲ與フルコト必要ナリト認ムルモ之力為支那全般ニ對スル帝國ノ利害關係ヲ閑却スルカ如キコトナキヲ要ス尚ホ張ニ對スル援助ハ其ノ一身一家ニ對スルモノニアラスシテ東三省ノ實權者タル彼ノ地位ニ對スルモノナルコトヲ根本的觀念トシ從ツテ我援助ニ

九、滿蒙ハ我領土ト境ヲ接シ國防及國民的生存上極メテ深甚且特異ノ關係ヲ有スルヲ以テ帝国ハ飽迄該地方ニ從來我施設ノ乏シカリシ北滿方面ニ向テ更ニ進路ヲ開拓スル為最善ノ努力ヲナシ政治上地理上有利ナル帝國ノ地位ヲ利用シ特ニ滿蒙一帶ニ於テ我經濟的發展ヲ期スルノ方針ヲ以テ万般ノ画策ヲ怠ラサルコトヲ要ス從ツテ滿蒙ニ

依リ彼ヲシテ中央政局ヲ把握セムトスルカ如キ野心ヲ助長セシメサルコトヲ旨トセサルヘカラス同時ニ張作霖ヲシテ其現実ノ勢力ナルモノハ要スルニ東三省ニ對スル帝國ノ實力ヲ背景トスルモノナルコトヲ明確ニ自覺セシムルコト絶対ニ必要ナルモノニ顧ミ政府ニ於テ我文武官憲及在留邦人ヲ指導シ常ニ相當權威ヲ以テ彼ニ莅マシムルコトニ努メサルヘカラス

(2)滿蒙ニ於ケル我既得ノ権利ヲ確保スルノ方針ヲ堅持スヘキハ固ヨリ當然ナルモ同時ニ地方ノ實情ニ応シ之カ活用ヲ期セサルヘカラス然ルニ閩東州及鐵道付屬地ニ對スル從來ノ施設ヲ見ルニ動モスレハ法律的地位ノ維持ニノミ汲々トシテ經濟的活用ノ方面ヲ閑却セル嫌ナキニアラス元來此等ノ地域ハ滿州ヲ貫ク大動脈ナルニ顧ミ日支兩國利益共通主義ノ下ニ支那人ヲシテ自由ニ之ヲ利用セシムルト共ニ專ラ奥地トノ經濟的關係ヲ円滑ナラシムル為適當ナル方策ヲ講スルコト必要ナリト認ム

(3)南滿州鐵道會社ハ我滿蒙ニ對スル經濟的活動ノ根幹タルヲ以テ政府ニ於テ其業務及ヒ会計ニ對シ嚴密ナル監認ム

督ヲ加フルト共ニ積極的指導ノ途ヲ講スルコト肝要ナリト認ム尚ホ滿蒙ニ於ケル鐵道網ノ拡張ハ產業ノ開發、秩序保持及我勢力ノ伸展上刻下ノ急務ナルコト論ヲ俟タサル所右ハ同会社ヲシテ經營ノ衝ニ当ラシムルコト諸般ノ關係上適當ナリト認ム(別紙滿蒙地方ニ於ケル鐵道敷設促進案参照)

(2)滿蒙ニ於テ我經濟力ノ發展上土地商租ニ關スル條約ノ權利ヲ實行スルコトニ努力スヘキハ勿論ナルモ右ハ諸般ノ關係上其目的ヲ達スルコト容易ナラサルニ顧ミ此際先ツ東三省官憲トノ間ニ暫行的弁法ヲ協定スルノ方針ニ出ツルコト

山東鐵道延長線敷設促進案

山東鐵道延長線即チ高密徐州線及濟南順德線ハ華府ニ於テ調印セラレタル山東懸案解決ニ關スル條約ノ結果國際財業團ノ共同事業ニ提供セラルルコトトナリマ新借款團關係代表者會議ニ於テモ同團体ノ共同事業(尤モ日本團体ハ右鐵道ニ關シ尚協定ヲ要スヘキ手続上ノ困難存在スルコトヲ声明セリ)ニ提供セラルルコトニ決シ居ル處右延長線ハ山東鐵道ト相俟チ海港ト奥地トヲ連絡スル一大鐵道系ヲ期

ノ議ヲ決シ借款團ニ對シ資金融通方申出テシムルコト必要ニシテ其ノ上ニテ關係國ニ於テ參加ノ意志ナキニ於テハ日本単独ニテモ資金融通ノ方法ヲ講スヘシ尤モ華府ニ於ケル山東懸案解決ニ關スル條約ノ規定上共同事業タル形式ヲ採ルコト必要ナルニ於テハ委託發行ノ規定ニ依リ資金ハ全部日本ニ於テ引受クルモ形式ハ共同事業ト為スノ途アリ唯茲ニ問題トナルハ支那政府ハ未タ新借款團ヲ公然承認シ居ラサルコトナルモ此ノ点ハ實際問題トシテ解決ノ方法ナキニアラサルヘシ

本延長線敷設ニ要スル資金ハ目下ノ我經濟情況ニ顧ミ民間ニ於テ調達スルコト到底困難ト認メラルニ付政府ニ於テ我資本家ニ低利資金ヲ融通スルコトヲ要スヘシ

一、前貸整理

本延長線ニ對シテハ所謂西原借款ノ一部トシテ二千万円ノ前貸交付セラレアリ契約当事者タル朝鮮興業台灣三銀行ニ於テハ本契約締結ノ為メ支那當局ト商議ヲ尽シタルモ纏マラサリシカ右前貸ノ元利ハ滿蒙諸鐵道ニ對スル分ト同様ニ一部分ノ利子支払ヒアリタル外全部支払停頓シ居レリ

本延長線敷設ニ當リ右二千万円ヲ新ニ供給スヘキ敷設費中ニ繰入レ其ノ回収ヲ図ラムトスルトキハ借款条件ニ重大ナル影響ヲ及ホシ債權者債務者双方ニ取り協議ヲ纏ムルコト困難トナリ促進ノ本旨ニ反スルカ如キ結果トナルヘキニ付一面ニ於テ本件延長線敷設促進ノ議ヲ決スルト共ニ他面本前貸ハ関稅二分五厘増徵ノ收入ヲ以テ一併整理ヲ圖ルコト得策トス

滿蒙地方ニ於ケル鐵道敷設促進案

滿蒙地方ニ於ケル鐵道敷設ニ關シテハ日支間ニ屢々協定ヲ經タルニ拘ラス各種ノ事情ニ依リ一小部分ノミ實現セラレタルニ過キス而モ鐵道ノ敷設ハ產業ノ開發秩序ノ保持上重大ノ關係ヲ有スルノミナラス同地方ニ對スル我地歩ヲ益々鞏固ナラシムル所以ニ付此際大体左記方針ノ下ニ其ノ促進ヲ圖ルコト急務ナリト思考ス

(イ)此ノ際先ツ左記留保線ノ敷設促進ヲ圖ルコト

一、開原海龍吉林線（場合ニ依リテハ奉天海龍吉林線トスルモ差支ナカルヘシ）
一、吉会線ノ一部タル吉林敦化線（敦化ヨリ間島ニ至

居レリ

ル線ハ暫ク飯田延太郎計画ノ天岡鐵道延長計画ニ委スルコト然ルヘシ）

一、長春洮南線（本線ハ伯都納大賚ヲ経過スルコトトシ差当リ大賚ニ止ムルコト然ルヘシ）

尚此際洮南齊々哈爾線敷設ノ急務ナルコトヲ唱道スルモノアルモ同線ハ我留保線ニアラサルノミナラス滿蒙留保問題當時ニ於ケル國際間ノ行懸並ニ其ノ露國側ニ与フルコトアルヘキ反響ニ顧ミ暫ク他日ノ問題ニ讓ルコト

(ロ)賓黒鐵道ニ付テハ同鐵道権利者露亞銀行ト正金銀行トノ間ニ新「シンヂケート」ヲ組織シ右敷設資金ヲ引受クルノ契約成立シアル処右契約ハ來ル六月ヲ以テ期限満了スルニ付不取敢更ニ相當期間ノ延長ヲ図ルコト尚右延長ニ付テハ從来ノ行懸上矢張正金銀行ノ名義ヲ用フルコト（本件延長ニ付テハ前貸ノ半額二十五万費ノ分拠支出ヲ要スル処右ハ政府ニ於テ便宜滿鉄ヲシテ支出セシムルカ又ハ直接正金ニ對シ適當ノ方法ニテ資金ヲ融通スルコト）

(乙)鐵道敷設協定ノ形式

一一 「対支政策綱領」関係 七三七

前記我留保諸鐵道ハ朝鮮工業台灣三銀行ニ於テ契約上ノ当事者タル処今後此等鐵道敷設促進ニ付テハ滿蒙ニ對スル滿鉄會社ノ使命ニ顧ミ同社ヲシテ出資其他万般ノ衝ニ当ラシムルコト當然且得策ナルヘシト思料ス且滿鉄ニ於テ其当事者トナル場合ニハ借款条件ノ如キハ出來得ル限り寛大且ツ實際的トシ工事設計ノ如キモ理想ニ走ラス專ラ鐵道開通ノ迅速ナラムコトヲ期スル方然ルヘシ

(I)前貸整理

前記我留保諸鐵道ニ對シテハ所謂西原借款ノ一部トシテ合計三千万円ノ前貸交付セラレアリ契約当事者タル三銀行ニ於テハ本契約締結ノ為支那當局ト商議ヲ尽シタルモ

纏ラスシテ今日ニ及ヒ而モ前貸ノ元利ハ極メテ一小部分ノ利子支払アリタル外全部支払停滞シ居レリ

前記鉄道敷設促進ニ当リ右三千万円ヲ新ニ供給スヘキ敷設費ニ割当テ整理ヲ図ラムトセハ自然借款条件ニ至大ノ影響ヲ及ホシ促進ヲ不可能ナラシムルニ至ルヘシト認メラル然ルニ所謂西原借款ナルモノハ之ヲ不確実ナル外債中ニ包含セシメ一併整理スルコト支那側ニ於テ異議ナキ

ノミナラス英國政府ニ於テモ公然同意ヲ表シ居リ其他ノ諸国ニ於テモ故障ナキ見込ニ付前記前貸ハ関税二分五厘増徴ノ收入ヲ以テ一併整理スルコトトシ前記諸鉄道ハ三銀行ノ関係ヲ離レ満鉄ランテ促進ヲ図ラシムルコト得策ナルヘシト思考ス尙前記留保諸鉄道ニ付テハ大正二年山座公使ト外交総長トノ間ニ交換セラレタル公文乃至間島協約中ニ明約アルニ顧ミ西原借款ノ関係ヲ離ルルモ両国協定上ノ根拠ヲ失フモノニアラス

(第十一号)

大正十三年四月十五日四局長會議ニ於テ意見交換ノ結果第一回案ヲ改作シテ本案ニ改メ四月十九日関係局長ニ送付セリ

(出淵)

対支政策綱領（未定稿）第二回案

方今我國政ノ急務ハ專ラ平和主義ニ立脚シテ帝國ノ經濟的實力ヲ涵養シ財政ノ基礎ヲ安固ナラシメ以テ國運ノ發展ヲ圖ルニ在リ之カ為内外ニ亘リ施設スヘキ事項多々アルヘキモ就中隣邦支那トノ間ニ親善緊密ナル關係ヲ結ヒ其ノ無尽ノ富源及豊富ナル労力ヲ対象トシテ經濟的提携ノ方策ヲ進ムルコト最モ肝要ナリトス
叙上ノ見地ヨリシテ帝國ハ支那ノ独立ヲ擁護シ列國ノ勢力浸漸ヲ防遏シ進ンテ其ノ施政ノ改善ニ援助ヲ与ヘ国内統一ノ機運ヲ助成スヘキハ勿論常ニ公正穩健ナル態度ヲ以テ支那ニ莅ミ其ノ信賴ヲ深カラシムルト共ニ他面支那ニ於ケル既得ノ権利及利益ヲ堅持シ支那及列國ヲシテ極東ニ於ケル帝國ノ地位及實力ヲ認識セシムルコトニ努メサルヘカラス

以上ノ根本方針ニ則リ此際先ツ左記綱領ニ基キ必要ナル措置ヲ講スルコト然ルヘシ

一、支那ニ閔スル華府諸條約及付帶決議中ニハ多少不備ナル点ナキニアラサルモ首要ナル事項ハ概シテ既成ノ主義乃至事態ヲ確認拡充シタルモノナルニ顧ミ帝國ニ於テ此等条約及決議ノ趣旨ヲ尊重スルノ方針ヲ取り同時ニ列國コト

ヲシテ之ト抵触スルカ如キ行動ニ出テサラシムル様努ムルコト得策ナルヘキ他面白日支両國ノ特殊關係ニ顧ミ帝國ノ權威及利益確保上必要ト認ムル場合ニハ常ニ自主的態度ヲ以テ機宜ノ措置ニ出ソルコト肝要ト認ム將又列國ニシテ其ノ政治的勢力ヲ伸長セシムルノ目的ヲ以テ支那ニ向テ國際管理制度ヲ強要セムトスルカ如キ場合ニハ予メ之ヲ阻止スル為最善ノ方法ヲ講スルコト

二、帝國ハ輓近世界大勢ノ推移ニ伴ヒ對支關係ヲ調整スルノ必要ニ顧ミ從来支那ニ對シ幾多ノ讓歩ヲ為セルモ此際對支方針ニ一段落ヲ画シ苟モ條約又ハ慣行ニ依リ正当ニ享受セル権利及利益ハ飽迄之ヲ堅持シ以テ支那ニ於ケル我地歩ヲ確保スルコトニ努メサルヘカラス尤モ既得ノ権利ト雖モ我經濟的勢力ノ伸長上之ヲ変更スルコト却テ得策ト認ムル場合ニハ自發的ニ調整ノ方法ヲ講スルコト

三、支那ノ内政ニ關シ叨ニ干渉スヘカラサルコト論ヲ俟タルモ他面其ノ施政ノ改善ニ對シ好意的援助ヲ與フルコト諸般ノ關係ニ顧ミ得策ト認ムルニ付之カ為帝國ニ於テ積極的態度ヲ以テ必要ナル措置ニ出ツルコト軍事ノ改良ハ施政改善ノ端ナルヲ以テ之又相當援助ヲ與

ムルニ付之カ為最善ノ努力ヲ尽スコト

五、支那政局安定ヲ告ケ且ツ財政整理ノ方案確立セサル限
リ当分政治借款ニ応セサルコト諸般ノ関係上得策ト認ム
ルニ付此ノ方針ノ下ニ我資本家及四國財團ニ対シ適當ナ
ル指導ヲ与フルト共ニ他面支那ヲシテ寺内内閣時代ノ諸
借款及其他ノ担保不確実ナル借款ヲ整理セシムルコト緊
要ナルニ顧ミ此目的ヲ達成スル為関税増徴等ノ機会ヲ利
用スヘキハ勿論尚必要ト認ムル場合ニハ前貸ノ形式ニ依
リ少額ノ政費ヲ融通スルコト

実業借款ニ至リテハ政治借款ト趣ヲ異ニスルニ顧ミ日支
両国経済関係発展ノ見地ヨリシテ政府ニ於テ之ヲ獎励ス
ルノ方針ヲ取ルコト得策ト認ムルモ苟モ過重ナル条件ヲ
強イ經濟提携ノ本義ヲ没却スルカ如キコトナキ様常ニ我
資本家ニ適當ナル注意ヲ与フルコトヲ要ス尙ホ実業借款
ハ專ラ我資本家ノ供給ニ一任スルコト然ルヘキモ鐵道ヲ
始メ交通通信機關ノ發展及ヒ其ノ連絡統一カ支那産業ノ
開発並我國防及國民的生存ニ重要ナル關係ヲ有スルモノ
ナルニ顧ミ此等ノ事業ニ対スル借款ニ対シテハ政府ニ於
テ資金調達上相當ノ援助ヲ与フルノ方針ヲ取ルト共ニ四

国團ニ於テ実業借款ニ応セムトスル場合ニハ之ヲ阻止セ
サルハ勿論必要ニ応シ進シテ便宜ヲ与フルコト
六、支那ノ天然資源ヲ開發シ我經濟力ノ發展上欠クヘカラ
ル燃料及原料ノ供給ヲ豊富ナラシムルコト極テ肝要ナ
ルヲ以テ之カ為統一的調查ヲ行ヒ且ツ必要ナル施設ヲ怠
ラサルコト就中軍事上及工業上重要ナル關係ヲ有スル
鐵、石炭、油、棉花、羊毛等ノ供給ヲ確保スル為最善ノ
努力ヲ必要トス尤モ現時ノ趨勢ニ鑑ミ独占的利權トシテ
此等ノ事業ヲ我ニ収ムルコトニノミ努メス寧ロ公正ナル
基礎ニ於テ日支共同經營トナスノ方針ニ出ツルコト得策
ナルヘク尙ホ米國又ハ英國等ノ資金ヲ利用スルノ方途ヲ
講スルコトモ亦一策ナルヘシ

七、対支一般貿易及企業ノ發展ヲ図ルコト焦眉ノ急務ナル
ヲ以テ之力為所有方策ヲ攻究實行スルコト必要ナリ就中
重要ナルハ政府及民間ノ銀資金充實ヲ図リ以テ支那ニ於
ケル我經濟的活動上銀資金ノ融通力ヲ拡張シ徐ニ支那銀
行市場ニ於ケル実權ヲ掌握スルノ方途ニ出ツルニ在リ之
ト同時ニ我對支金融機關及投資機關ノ整理ヲ行ヒ無益ノ
競爭ヲ防キ其活動力ノ増進ヲ図ルコトニ努メサルヘカラス

尚ホ他面支那ヲシテ鉱業其他ノ重要企業上外國ニ対スル
各種ノ制限及ヒ穀類其他重要原料ノ輸出ニ対スル制限ヲ
解除又ハ緩和セシメ且ツ外國人及外國品ニ対スル各種ノ
不当課税内外品ニ対スル差別待遇ヲ矯正セシメ以テ我貿
易及企業ノ發展上障害ヲ除ク為適當ナル措置ヲ執ルコト
八、滿蒙ハ我領土ト境ヲ接シ国防及國民的生存上一層深甚
且特異ノ關係ニ在ルニ顧ミ帝國ハ該地域ニ於ケル我地歩
ノ擁護增進上特ニ意ヲ須イサルヘカラス殊ニ從來我施設
ノ乏シカリシ北滿方面ニ向テ此際新ニ進路ヲ開拓スルノ
途ヲ講シ以テ将来南北満州及蒙古一帯ニ於テ我國力ノ伸
長ヲ期スル為諸般ノ画策ヲ怠ラサルコトヲ要ス就中南満
州鐵道ト連繫スル鐵道網ノ拡張ヲ図リ秩序ノ維持及產業
ノ發達ニ資スルカ如キ刻下ノ急務ナルハ勿論他面土地租
借ノ途ヲ啓キ本邦人ノ發展ヲ助成スルニ努ムルト共ニ關
東州及鐵道付屬地ト満蒙内地トノ經濟的關係ヲ改善シ之
ヲ円滑緊密ナラシムル為適當ナル方策ヲ講スルコト緊密
ナリト認ム

將又現下東三省ノ実權者タル張作霖ニ対シテハ我既定ノ
方針ニ從ヒ引続キ好意的援助ヲ與へ且ツ其ノ地位ヲ擁護

シ以テ彼ヲシテ專心治安維持及民力増進ニ努メシムルコ
ト必要ナリト認ムルモ之ト同時ニ苟モ我援助ニ倚頼シテ
中央政局ヲ把握セムトスルカ如キ野心ヲ助長シ累ヲ支那
全般ニ対スル帝國ノ利害關係ニ及ホスカ如キコトナキ様
指導ヲ誤マラサルコトニ意ヲ須イルト共ニ彼ヲシテ其ノ
現実ノ勢力ナルモノハ畢竟滿蒙ニ対スル帝國ノ實力ヲ背
景トスルモノナルコトヲ自覺セシメ常ニ好意的態度ヲ以
テ我國ヲ迎ヘシムルコトニ努メサルヘカラス

(第十二号)

大正十三年四月二十二日畠軍務局長提案

対支政策綱領

支那ノ獨立ヲ擁護シ東亞ノ平和ヲ維持シ帝國ノ地位ヲ向上
スルハ我對支政策ノ要綱ナリ之カ為帝國ハ一面列強勢力ノ
浸漸ヲ抵制シ他面支那ヲ扶掖善導シテ其治平ト福祉ヲ促進
シ支那官民ヲシテ帝國ヲ敬仰信賴スルノ念ヲ深カラシメ以
テ兩國提携親和ノ実ヲ挙タルト共ニ在支無尽ノ富源ヲ開拓
シテ彼ヲ利シ且我經濟的發展ヲ策シ國運伸長ノ基礎ヲ鞏固
スルハ帝國當面ノ急務ナリ

講ス

軍事及兵器供給問題ニ就テ

軍事ノ改善就中國家的軍隊ノ改編建設ハ支那ノ時弊ヲ一掃シ諸政革新ノ要諦ナリ即チ小ニシテハ各地方ノ治安ヲ維持シ大ニシテハ統一ノ大業ヲ達成スル為唯一無二ノ前提的要件トス

故ニ帝国ハ凡ユル機会ニ於テ各地軍閥ノ有力者ト接近ヲ図リ漸次之ヲ指導誘掖シ彼等ヲシテ翻然其私権ヲ棄テ國軍本來ノ任務ニ服セシムル如クスルハ支那存立ノ為必要ナルノミナラス我対支政策ノ根本義ニ合致スル所以ナリ之力為帝國ハ進ンテ軍事顧問ノ招聘ニ応シ又支那軍隊特ニ其根幹タル將校ノ教育ニ力ヲ尽シ以テ平素ヨリ両国軍事ノ緊密ナ關係ヲ結ハシメ有事ニ際シ彼我相搏ツノ愚ヲ避ケ寧ロ相率ヒテ東亜ノ防衛ニ膺ル如クスル終局ノ理想トス

尚ホ一面ニ於テハ此ニ依リテ他國勢力ノ支那軍隊内ニ浸漸スルヲ防キ又此等軍閥ハ各地共現下支那ノ實勢力ヲ把握セルモノナルカ故ニ此等ノ人物ト相親和シ置クハ帝國ノ対支發展上間接的利益極テ大ナルカ如シ

対支兵器供給問題ニ關シテハ大戰後歐米列國ニ多數過剰兵

濟提携ノ実ヲ挙クルコトニ努メサルヘカラス

以上ノ方針ニ基キ此際先ツ左記綱領ニ基キ必要ナル措置ヲ講スルコト

(第十四号)

大正十三年五月六日海軍軍務局長提出

支那ノ独立ヲ擁護シ其國歩ヲ確立セシメ之ト相提携シテ東亜ノ進歩開発ニ任シ事態ヲ改善シ且ツ帝國ノ地位ヲ向上スルハ我対支政策ノ要綱ナリ之力為帝國ハ列強勢力ノ支那浸漸ヲ防遏シ支那ヲ扶掖善導スルト共ニ常ニ公正穩健ナル精神ヲ以テ彼ニ莅ミ支那ヲシテ帝國ヲ敬仰信賴スルノ念ヲ深カラシメ而シテ我既得ノ権利及利益並ニ両國特殊ノ關係ヲ善用シテ其無限ノ富源ヲ開拓シ我經濟的勢力ノ發展ヲ策シ國運伸張ノ基礎ヲ鞏クスルハ帝國當面ノ急務ナリト認ム

(第十五号)

大正十三年五月六日陸軍軍務局長ヨリ

対支政策綱領

方今帝國ノ急務ハ専ラ國富ヲ涵養シ財政ノ基礎ヲ安固ナラシメ以テ國運ノ伸長ヲ圖ルニ在リ之カ為内外ニ亘リ施設スハキ事項尠ナカラサルヘキモ就中隣邦支那トノ關係ヲ改善シ大ニシテハ統一ノ大業ヲ達成スル為唯一無二ノ前提的要件トス

器ヲ保有シアルニ顧ミ今直ニ該國際協定ヲ破棄スルハ帝國ノ不得策トスル所ナリ從テ依然該協定ノ存続ヲ主張シ列國ヲシテ齊シク之ヲ恪守セシムルヲ要ス但支那ノ治安維持上必要ナル兵器並支那ノ自ラ兵器ヲ製出セントスル正当ナル要求ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ拠ル

(第十二号)

大正十三年五月二日陸、藏局長へ送付

対支政策綱領

方今帝國ノ急務ハ専ラ國富ヲ涵養シ財政ノ基礎ヲ安固ナラシメ以テ國運ノ伸長ヲ圖ルニ在リ之カ為内外ニ亘リ施設スハキ事項尠ナカラサルヘキモ就中隣邦支那トノ關係ヲ改善シ其無尽ノ富源ヲ利用シテ我經濟的勢力ノ發展ヲ期スルコト緊要ナリト認ム

叙上ノ見地ヨリシテ帝國ハ其ノ伝統的政策ニ基キ支那ノ獨立ヲ擁護シ進ンテ國情改善ノ為好意的援助ヲ与フルハ勿論之ト同時ニ我既得ノ権利及利益ヲ堅持シ且ツ列國ノ勢力浸漸ヲ防遏シ以テ極東ノ平和ヲ維持シ我地歩ノ確保及伸展ヲ図ルト共ニ他面平和主義ニ立脚シテ公正穩健ナル態度ヲ以テ支那ニ莅ミ其ノ信賴ノ念ヲ深カラシメ和親協力須ラク経

シ其無尽ノ富源ヲ利用シテ我經濟的勢力ノ發展ヲ期スルコト緊要ナリト認ム

叙上ノ見地ヨリシテ帝國ハ其ノ伝統的政策ニ基キ支那ノ獨立ヲ擁護シ進ンテ國情改善ノ為好意的援助ヲ与フルハ勿論之ト同時ニ我既得ノ権利及利益ヲ堅持シ且ツ列國ノ勢力浸

(付箇1) 漢語
國ルト共ニ他面平和主義ニ立脚シテ公正穩健ナル態度ヲ以テ支那ニ莅ミ其ノ信賴ノ念ヲ深カラシメ和親協力須ラク経濟提携ノ実ヲ挙クルコトニ努メサルヘカラス
以上ノ方針ニ基キ此際先ツ左記綱領ニ基キ必要ナル措置ヲ講スルコト

一、対支國際關係ヲ律スルニ當リ支那ニ關スル華府諸條約及付帶決議ヲ以テ其ノ基準トナスト共ニ日支兩國ノ特殊關係ニ顧ミ帝國ノ権利及利益確保上必要ト認ムル場合ニハ常ニ自主的態度ヲ以テ機宜ノ措置ニ出ツルコト殊ニ將來列國ニ於テ支那ニ向テ國際管理制度ヲ強要セムトスルカ如キ場合ニハ之ヲ阻止スル為最善ノ方法ヲ講スルコトハ常ニ國政ニ關シ明ニ干与セサルノ方針ヲ執ルト共ニ其ノ国情改善ノ為進ンテ好意的援助ヲ與フルコト支那軍

一一 「対支政策綱領」関係 七三七

八一〇

備ノ縮少及改良ハ国情改善ノ一端ナルニ顧ミ之又好意的援助ヲ与フルコト但シ帝国ニ於テ利害関係ヲ有

ラシテ之ニ倣ハシムルコト但シ帝国ニ於テ利害関係ヲ有

スル鐵道ニ対シ警備用武器ヲ供給スルカ如キ特殊ノ場合

ニハ別ニ之ヲ考慮スルコト

(付箋3) 武器供給ニ關シ帝国ニ於テ國際協定ノ趣旨ヲ恪守シ列国

ヲシテ之ニ倣ハシムルコト但シ帝国ニ於テ利害関係ヲ有

スル鐵道ニ対シ警備用武器ヲ供給スルカ如キ特殊ノ場合

ニハ別ニ之ヲ考慮スルコト

三、支那政局ノ現状ニ顧ミ中央政府ニノミ偏重スルコトナク広ク地方実権者トノ間ニモ出来得ル限り良好ナル関係ヲ結ヒ以テ各方面ニ対スル我勢力ノ伸長ヲ因ルコト從テ

常ニ公平ナル態度ヲ以テ地方実権者ニ莅ミ其ノ正当ナル

目的ニ対シ好意的援助ヲ与フルコト但シ援助ノ程度及方

法ニ付テハ當該地方ニ対スル帝国ノ利害関係ニ応シ適宜

調節ヲ加フルコト

同時ニ日支両國間ニ友好的精神ト公正ナル態度ヲ以テ

完全ナル国民的諒解ヲ因ル為最良ノ方法ヲ講スルコト

四、帝国ハ國際關係ノ趨勢ニ顧ミ輓近支那ニ対シ幾多ノ讓歩ヲナセルモ今後ハ苟モ條約又ハ慣行ニ依リ正当享受セ

ル権利及利益ハ飽迄之ヲ堅持シ以テ支那ニ於ケル我地歩

(付箋5) (付箋4)

ノ確保及伸展ヲ圖ルト共ニ支那及列国ヲシテ極東ニ於ケル帝國ノ地位及實力ヲ認識セシムル為最善ノ努力ヲナスコト

五、支那政局安定ヲ告ケ且ツ財政整理ノ方案確立セサル限リ当分政治借款ニ応セサルノ方針ヲ執リ我資本家及四國財團ニ対シ之カ為適當ナル指導ヲ与フルコト同時ニ支那ヲシテ寺内内閣時代ノ諸借款及其他ノ担保不確定ナル借款ヲ整理セシムル為関稅增徵等ノ機會ヲ利用スルコト尚ホ此等借款整理上必要ト認ムル場合ニハ若干ノ政費融通ヲ妨ケサルコト

六、支那ノ天然資源ヲ開發シ我國民的生存上必要欠クヘ力

(付箋6)

ノ確保及伸展ヲ圖ルト共ニ支那及列国ヲシテ極東ニ於ケル帝國ノ地位及實力ヲ認識セシムル為最善ノ努力ヲナスコト

五、支那政局安定ヲ告ケ且ツ財政整理ノ方案確立セサル限リ当分政治借款ニ応セサルノ方針ヲ執リ我資本家及四國財團ニ対シ之カ為適當ナル指導ヲ与フルコト同時ニ支那ヲシテ寺内内閣時代ノ諸借款及其他ノ担保不確定ナル借款ヲ整理セシムル為關稅增徵等ノ機會ヲ利用スルコト尚ホ此等借款整理上必要ト認ムル場合ニハ若干ノ政費融通ヲ妨ケサルコト

六、支那ノ天然資源ヲ開發シ我國民的生存上必要欠クヘ力

（付箋7）

ラサル物資ノ供給ヲ容易ナラシムル為速カニ統一的調査ヲ行ヒ且其実行上必要ナル措置ヲ講スルコト就中軍事上

及工業上重要ナル關係ヲ有スル鐵、石炭、油、棉花、羊毛等ノ供給ヲ確保スル為最善ノ努力ヲナスコト尚ホ此等

ノ事業ハ出來得ル限り我資本家ヲシテ之ヲ經營セシムル

コト望マシキモ必要ニ応シ日支共同經營トナスカ又ハ米

國又ハ英國ノ資金ヲ利用スルコト

同時ニ支那ヲシテ鉱業其他ノ重要企業上外国人ニ対スル

各種ノ制限ヲ撤廃セシメ且ツ重要物資ノ輸出ニ対スル制限ヲ解除又ハ緩和セシムルコト

七、対支企業及貿易ノ發展ヲ因ルコト刻下ノ急務ナルヲ以テ之カ為有ラユル方策ヲ攻究实行スルコト就中我カ各種

ノ対支投資機関及企業機関ノ整理ヲ實行シ無益ノ競争ヲ

防クト共ニ戰後ノ財界反動及今次ノ震災等ニ依リ萎靡振

ハサル其ノ活動力ヲ恢復セシムルコトニ力ヲ須イ尚ホ支那ニ於ケル金貨本位制度ノ採用前途遼遠ナルニ顧ミ政府

及民間ニ於テ銀資金充実ノ途ヲ講シ以テ対支經濟的活動

上銀資金ノ融通力ヲ拡張シ且ツ徐ニ東洋銀市場ニ対スル

我國ノ實力ヲ涵養スルニ努ムルコト

（付箋8）

（付箋7）

（付箋6）

（付箋5）

（付箋4）

（付箋3）

（付箋2）

（付箋1）

（付箋7）

（付箋6）

（付箋5）

（付箋4）

（付箋3）

(三) 满蒙ニ於ケル天然資源ハ啻ニ豊富ナルノミナラス諸般ノ関係上我ニ於テ之ヲ確保利用スルコト比較的容易ナルニ顧ミ対支企業發展上該地域ニ対シ特ニ力ヲ注ギ同

時ニ之ニ伴ヒ必要ナル投資及金融機関ノ整備ヲ図ルコト
ト

(四) 满蒙ニ対スル我經營施設ハ之ヲ閑東州及鐵道付屬地ニ集中セシムルニ止マラス進ンテ之ヲ奥地ニ拡張セシムル為此際積極的方針ヲ以テ必要ナル措置ヲナスコト就

中南滿州鐵道ト連繫スル鐵道網ノ敷設ヲ促進スルト共ニ土地租借ノ途ヲ啓キ産業ノ開發及邦人ノ發展ヲ助成スルコト刻下ノ急務ナルハ勿論閑東州及鐵道付屬地ト

滿蒙奥地トノ經濟關係ヲ円滑緊密ナラシムル為適當ナル方法ヲ講スルコト

(五) 南滿州鐵道会社ヲ以テ满蒙ニ対スル我經營施設ノ根幹タラシメ其機能ヲ十分ニ發揮セシムル為政府ニ於テ会社ノ業務ニ対シ適當ナル指導ヲ与フルコト

(付箋1) 本要綱ニ閲スル意見ハ面談ニ譲ル
(付箋2)

北滿方面ニ向テ進路ヲ開拓スルノ方針ニ基ク施設ヲ若干記述スルヲ要ス

(第十六号)

大正十三年五月九日四局長會議審議ノ結果作成、同月十二日
関係局長ニ送付

対支政策綱領（閣議案）

支那ノ独立ヲ擁護シ施政改善ニ援助ヲ与ヘ且列國ノ勢力浸漸ヲ杜キ以テ極東ノ平和ヲ確保シ我地位ノ向上ヲ期スヘキハ勿論恒ニ公正穩健ナル精神ヲ以テ支那ニ蒞ミ其ノ信賴ノ念ヲ深カラシメ和親提携進シテ其ノ無尽ノ富源ヲ開發シテ我經濟的勢力ノ發展ヲ図リ國運伸長ノ基礎ヲ鞏クスルコト
帝国當面ノ急務ナリト認ム

以上ノ方針ニ基キ此際左記綱領ニ拠リ必要ナル措置ヲ講スルコト

一、 対支國際關係ヲ律スルニ當リ支那ニ閔スル華府諸條約

及付帶決議ヲ以テ其ノ基準トナスヘシト雖日支兩國ノ特殊關係ニ顧ミ必要ト認ムル場合ニハ常ニ自主的態度ヲ以

テ機宜ノ措置ニ出ツルコト殊ニ将来列國ニ於テ支那ニ向テ國際管理制度ヲ強要セムトスルカ如キ場合ニハ之ヲ可ト

一二 「対支政策綱領」関係 七三七

「共」ヲ「雖モ」ニ改メ「帝國ノ權威及利益確保上必

要ト認ムル場合ニハ」ヲ削除スルコトヲ可トス

(付箋3)

「縮少」ハ「整理」ト改ムルヲ可トス

(付箋4)

「鐵道ニ対シ」ヲ「地方又ハ交通線ノ」ニ改ムルヲ可トス

(付箋5)

「地方実權者」ヲ「地方各界有力者」ト改メ但書中「當該地方ニ対スル」ノ文字ヲ省クヲ可トス

(付箋6)

一、「寺内内閣時代」ノ「未整理」ニ改ムルヲ可トス
第二項末尾ニ左記事項ヲ追加ス

但之力為國際財政管理ニ陷ラサル如ク特ニ注意ヲ要ス

(付箋7)

二、 第三項末文ヲ左ノ如ク修正ス
相当援助ヲ与フルト共ニ其施設ヲシテ帝國ノ企望ニ副ハシムル如ク指導スルコト

止スル為最善ノ方法ヲ講スルコト

二、 支那ノ内政ニ閔シ叨ニ干与セサルノ方針ヲ執ルト共ニ

其ノ施政改善ノ為進シテ好意的援助ヲ与フルコト

支那軍備ノ整理及改良ハ施政改善ノ端ナルニ顧ミ之又好意的援助ヲ与フルコト尤モ支那政局ノ現状及國際關係ニ顧ミ其ノ實行上細心ノ注意ヲ払フコト

武器供給ニ閔シテハ帝國ニ於テ國際協定ノ趣旨ヲ恪守シ列國ヲシテ之ニ倣ハシムルコト但シ帝國ニ於テ利害關係ヲ有スル交通線ノ警備其ノ他ノ為武器供給ヲ必要トスル特殊ノ場合ニハ別ニ之ヲ考慮スルコト

三、 支那政局ノ現状ニ顧ミ差当リ中央政府ニノミ偏重スルコトナク広ク地方実權者トノ間ニモ出来得ル限り良好ナル關係ヲ結ヒ以テ各方面ニ対スル我勢力ノ伸長ヲ図ルコト從テ常ニ公平ナル態度ヲ以テ地方実權者ニ蒞ミ其ノ正当ナル目的ニ対シ好意的援助ヲ与フルコト但援助ノ程度及方法ニ付テハ帝國ノ利害關係ニ慮シ適宜調節ヲ加フルコト

同時ニ日支兩國間ニ友好的精神ト公正ナル態度トヲ以テ完全ナル國民的諒解ヲ図ル為最良ノ方法ヲ講スルコト

四、条約又ハ慣行ニ依リ正当ニ享受セル権利及利益ハ飽迄之ヲ堅持シ以テ支那ニ於ケル我地歩ノ確保及伸展ヲ図ルト共ニ支那及列国ヲシテ極東ニ於ケル帝国ノ地位及實力ヲ認識セシムル為最善ノ努力ヲナスコト

五、支那政局安定ヲ告ケ且財政整理ノ方策確立セサル限り当分政治借款ニ応セサルノ方針ヲ取り我資本家及四国財團ニ対シ之力為適當ナル指導ヲ与フルコト
同時ニ支那ヲシテ無担保及担保不確実ナル借款ヲ整理セシムル為關稅增徵等ノ機會ヲ利用スルコト尚此等借款整理上必要ト認ムル場合ニハ若干ノ政費融通ヲ妨ケサルコト

実業借款ハ日支經濟關係ノ發展ヲ助成スルノ見地ヨリシテ之ヲ獎勵スルノ方針ヲ取ルヘキモ苟モ過重ナル条件ヲ強イ經濟提携ノ本義ヲ没却スルカ如キコトナキ様常ニ我資本家ニ適當ナル注意ヲ与フルコト尚実業借款ハ専ラ自由供給ニ一任スルコト適當ナリト認ムルモ交通通信機關ノ發展及重要產業ノ開發等我國防及國民的生存上緊密ナル關係ヲ有スル事業ニ對スル借款ニ就テハ政府ニ於テ資金調達上相當援助ヲ与フルコト

實力ヲ涵養スルニ努ムルコト
同時ニ支那ヲシテ外国人及外國品ニ對スル各種ノ不當課税並内外品ニ對スル差別待遇ヲ矯正セシムルコト
八、滿蒙ハ我領土ト境ヲ接シ国防及國民的生存上支那ノ他地方ニ比シ一層深甚且特異ノ關係在ルニ顧ミ此際特ニ該地域ニ於テ我地歩ノ確保及伸展ヲ図リ殊ニ從來我施設ノ乏シカリシ北滿方面ニ向テ新ニ進路ヲ開拓スルノ方針ヲ取り此ノ見地ヨリシテ更ニ左記諸点ニ付格別ノ考慮ヲ払フコト

(一)現下東三省ノ實權者タル張作霖ニ對シテハ既定ノ方針ニ從ヒ引続キ好意的援助ヲ与ヘ且其ノ地位ヲ擁護スルコト但之カ為累ヲ支那全般ニ對スル帝國ノ利害關係ニ及ホスカ如キコトナキ様意ヲ須イルト共ニ張ニ對シ適當ナル指導ヲ与ヘ彼ヲシテ其ノ實權ナルモノハ畢竟滿蒙ニ對スル帝國ノ背景トスルモノナルコトヲ自觉シ常ニ好意的態度ヲ以テ我國ヲ迎ヘシムルコト
(二)滿蒙ニ於ケル秩序ノ維持ハ帝國ニ於テ該地域ニ對スル重大ナル利害關係殊ニ朝鮮ノ統治上特ニ重要視スル所ナルヲ以テ之力為常ニ最善ノ注意ヲ払ヒ且自衛上必要

六、支那ノ天然資源ヲ開發シ我國民的生存上欠クヘカラサル物資ノ供給ヲ容易ナラシムル為必要ナル措置ヲ講スルコト就中工業上及軍事上重要ナル關係ヲ有スル鐵、石油、炭、油、棉花、羊毛等ノ供給ヲ確保スル為最善ノ努力ヲナスコト

尚此等ノ事業ハ出來得ル限り我資本家ヲシテ之ヲ經營セシムルコト望マシキモ必要ニ応シ日支共同經營トナスカ又ハ英米等ノ資金ヲ利用スルコト
同時ニ支那ヲシテ鉱業其他ノ重要企業上外國人ニ對スル各種ノ制限ヲ撤廃セシメ且ツ重要物資ノ輸出ニ對スル制限ヲ解除又ハ緩和セシムルコト

七、對支企業及貿易ノ發展ヲ圖ルコト刻下ノ急務ナルヲ以テ之カ為必要ナル方策ヲ攻究實行スルコト就中我各種ノ對支投資機関及企業機關ノ整理ヲ實行シ無益ノ競争ヲ防クト共ニ戰後ノ財界反動及今次ノ震災等ニ依リ萎靡振ハサル其ノ活動力ヲ恢復セシムルコトニ力ヲ須イ尚支那ニ於ケル金貨本位制度ノ採用前途遼遠ナルニ顧ミ政府及民間ニ於テ銀資金充実ノ途ヲ講シ以テ對支經濟的活動上銀資金ノ融通力ヲ拡張シ且徐ニ東洋銀市場ニ對スル我國ノ

ト認ムル場合ニハ機宜ノ措置ニ出ツルコト

(一)滿蒙ニ於ケル天然資源ハ啻ニ豊富ナルノミナラス諸般ノ關係上我ニ於テ之ヲ確保利用スルコト比較的容易ナルニ顧ミ對支企業發展上該地域ニ對シ特ニ力ヲ注ギ同時ニ之ニ伴ヒ必要ナル投資及金融機關ノ整備ヲ圖ルコト

(四)滿蒙ニ對スル我經營施設ハ之ヲ關東州及鐵道付屬地ニ集中セシムルニ止マラス進シテ之ヲ奥地ニ拡張セシムル為此ノ際積極的方針ヲ以テ必要ナル措置ヲ為スコト就中南滿州鐵道ト連繫スル鐵道網ノ整設ヲ促進スルト共ニ土地租借ノ途ヲ啓キ産業ノ開發及邦人ノ發展ヲ助成スルコト刻下ノ急務ナルハ勿論關東州及鐵道付屬地ト滿蒙奥地トノ經濟關係ヲ円滑緊密ナラシムル為適當ナル方法ヲ講スルコト
(五)南滿州鐵道會社ヲ以テ滿蒙ニ對スル我經濟的施設ノ根幹タラシメ其ノ機能ヲ十分ニ發揮セシムル為政府ニ於テ會社ノ業務其他ニ付必要ナル改善ノ途ヲ講スルコト
(六)東支鐵道ハ滿蒙ニ對スル我經濟的勢力ノ發展上重要ナル關係アルニ顧ミ常ニ深甚ナル注意ヲ払ヒ我國ニ有利

ルノ方針ヲ執ルコト支那軍備ノ整理及改良ハ施政改善ノ一端ナルニ顧ミ之又好意的援助ヲ与フルコト尤モ支那政局ノ現状及國際關係ニ顧ミ其ノ実行上細心ノ注意ヲ払フコト

武器供給ニ関シテハ帝国ニ於テ國際協定ノ趣旨ヲ恪守シ列国ヲシテ之ニ倣ハシムルコト但シ帝国ニ於テ利害關係ヲ有スル交通線ノ警備其他ノ為武器供給ヲ必要トスル特殊ノ場合ニハ別ニ之ヲ考慮スルコト

三、支那政局ノ現状ニ顧ミ差当リ中央政府ニノミ偏重スルコトナク広ク地方実權者トノ間ニモ出来得ル限り良好ナル關係ヲ結ヒ以テ各方面ニ対スル我勢力ノ伸長ヲ圖ルコト從テ常ニ公平ナル態度ヲ以テ地方実權者ニ莅ミ其ノ正当ナル目的ニ対シ好意的援助ヲ与フルコト但シ援助ノ程度及方法ニ付テハ帝國ノ利害關係ニ応シ適宜調節ヲ加フルコト同時ニ日支両國間ニ友好的精神ト公正ナル態度トヲ以テ完全ナル国民的諒解ヲ図ル為最良ノ方法ヲ講スルコト

四、条約又ハ慣行ニ依リ正当ニ享受セル權利及利益ハ飽迄之ヲ堅持シ以テ支那ニ於ケル我地歩ノ確保及伸展ヲ図ル

炭、油、棉花、羊毛等ノ供給ヲ確保スル為最善ノ努力ヲナスコト

尚ホ此等ノ事業ハ出来得ル限り我資本家ヲシテ之ヲ經營セシムルコト望マシキモ必要ニ応シ日支共同経営トナスカ又ハ英米等ノ資金ヲ利用スルコト

同時ニ支那ヲシテ鉱業其他ノ重要企業上外国人ニ対スル各種ノ制限ヲ撤廃セシメ且ツ重要物資ノ輸出ニ対スル制限ヲ解除又ハ緩和セシムルコト

七、対支企業及貿易ノ發展ヲ図ルコト刻下ノ急務ナルヲ以テ之カ為必要ナル方策ヲ攻究实行スルコト就中我各種ノ対支投資機関及企業機関ノ整理ヲ實行シ無益ノ競争ヲ防クト共ニ戰後ノ財界反動及今次ノ震災等ニ依リ萎靡振ハサル其ノ活動力ヲ恢復セシムルコトニ力ヲ須イ尚ホ支那ニ於ケル金貨本位制度ノ採用前途遼遠ナルニ顧ミ政府及民間ニ於テ銀資金充実ノ途ヲ講シ以テ対支經濟的活動上銀資金ノ融通力ヲ拡張シ且徐ニ東洋銀市場ニ対スル我国ノ実力ヲ涵養スルニ努ムルコト

同時ニ支那ヲシテ外国人及外国品ニ対スル各種ノ不當課税並内外品ニ対スル差別待遇ヲ矯正セシムルコト

ト共ニ支那及列国ヲシテ極東ニ於ケル帝国ノ地位及實力ヲ認識セシムル為最善ノ努力ヲナスコト

五、支那政局安定ヲ告ケ且財政整理ノ方案確立セサル限り当分政治借款ニ応セサルノ方針ヲ取り我資本家及四国財團ニ対シ之力為適當ナル指導ヲ与フルコト同時に支那ヲシテ無担保及担保不確實ナル借款ヲ整理セシムル為閑稅増徵等ノ機會ヲ利用スルコト尚ホ此等借款整理上必要ト認ムル場合ニハ若干ノ政費融通ヲ妨ケサルコト

実業借款ハ日支經濟關係ノ發展ヲ助成スルノ見地ヨリシテ之ヲ援助スルノ方針ヲ取ルヘキモ苟モ過重ナル条件ヲ強イ經濟提携ノ本義ヲ没却スルカ如キコトナキ様常ニ我資本家ニ適當ナル注意ヲ与フルコト尚ホ實業借款ハ専ラ自由供給ニ一任スルコト適當ナリト認ムルモ交通通信機関ノ發展及重要產業ノ開發等我國防及國民的生存上緊密ナル關係ヲ有スル事業ニ対スル借款ニ就テハ政府ニ於テ資金調達上相當援助ヲ与フルコト

六、支那ノ天然資源ヲ開發シ我國民的生存上欠クヘカラサル物資ノ供給ヲ容易ナラシムル為必要ナル措置ヲ講スルコト就中工業上及軍事上重要ナル關係ヲ有スル鐵、石

八、滿蒙ハ我領土ト境ヲ接シ国防及國民的生存上支那ノ他地方ニ比シ一層深甚且特異ノ關係ニ在ルニ顧ミ此際特ニ該地域ニ於テ我地歩ノ確保及伸展ヲ図リ殊ニ從來我施設ノ乏シカリシ北滿方面ニ向テ新ニ進路ヲ開拓スルノ方針ヲ取り此ノ見地ヨリシテ更ニ左記諸点ニ付格別ノ考慮ヲ払フコト

(一)現下東三省ノ實權者タル張作霖ニ対シテハ既定ノ方針ニ従ヒ引続キ好意的援助ヲ与ヘ且其ノ地位ヲ擁護スルコト但シ之カ為累ヲ支那全般ニ対スル帝國ノ利害關係ニ及ホスカ如キコトナキ様意ヲ須イルト共ニ常ニ張ニ對シ適當ナル指導ヲ与ヘ彼ヲシテ其ノ實權ナルモノハ畢竟滿蒙ニ対スル帝國ノ實力ヲ背景トスルモノナルコトヲ自覺シ常ニ好意的態度ヲ以テ我國ヲ迎ヘシムルコト

(二)滿蒙ニ於ケル秩序ノ維持ハ帝國ニ於テ該地域ニ対スル重大ナル利害關係殊ニ朝鮮ノ統治上特ニ重要視スル所ナルヲ以テ之力為常ニ最善ノ注意ヲ払ヒ且自衛上必要ト認ムル場合ニハ機宜ノ措置ニ出ツルコト

(三)滿蒙ニ於ケル天然資源ハ當ニ豊富ナルノミナラス諸般

ノ關係上我ニ於テ之ヲ確保利用スルコト比較的容易ナルニ顧ミ対支企業發展上該地域ニ對シ特ニ力ヲ注ギ同時ニ之ニ伴ヒ必要ナル投資及金融機關ノ整備ヲ図ルコト

(4) 满蒙ニ対スル我經營施設ハ之ヲ閏東州及鐵道付屬地ニ集中セシムルニ止マラス進ンテ之ヲ奥地ニ拡張セシムル為此際積極的方針ヲ以テ必要ナル措置ヲナスコト就中南滿州鉄道ト連繫スル鐵道網ノ敷設ヲ促進スルト共ニ土地租借ノ途ヲ啓キ產業ノ開発及邦人ノ發展ヲ助成スルコト刻下ノ急務ナルハ勿論閏東州及鐵道付屬地ト滿蒙奥地トノ經濟關係ヲ円滑緊密ナラシムル為適當ナル方法ヲ講スルコト

(5) 南滿州鉄道会社ヲ以テ滿蒙ニ対スル我經濟的施設ノ根幹タラシメ其ノ機能ヲ十分ニ發揮セシムル為政府ニ於テ会社ノ業務其他ニ付必要ナル改善ノ途ヲ講スルコト

(6) 東支鐵道ハ滿蒙ニ対スル我經濟的勢力ノ發展上重要ナル關係アルニ顧ミ常ニ深甚ナル注意ヲ払ヒ我国ニ有利ナル解決ヲ期スルコト

編註 本項所載ノ文書ハ總テ松本忠雄元外務政務次官ノ保管ニ係ル筆写本『松本記録 対外政策並態度關係雜纂 対支那ノ部(清浦内閣ノ対支政策)』力ラ採録シタ。

日本外交文書 大正十三年 第二冊 終

付録 日本外交文書 大正十三年第二冊 日付索引